

佐渡市男女共同参画に関する市民意識調査結果

1 調査目的

市民の男女共同参画に関する意識を把握し、令和2年度からの第3次佐渡市男女共同参画計画のための参考資料とするとともに、男女共同参画社会の実現に向け、市の施策を一層充実させるためにも活用する。

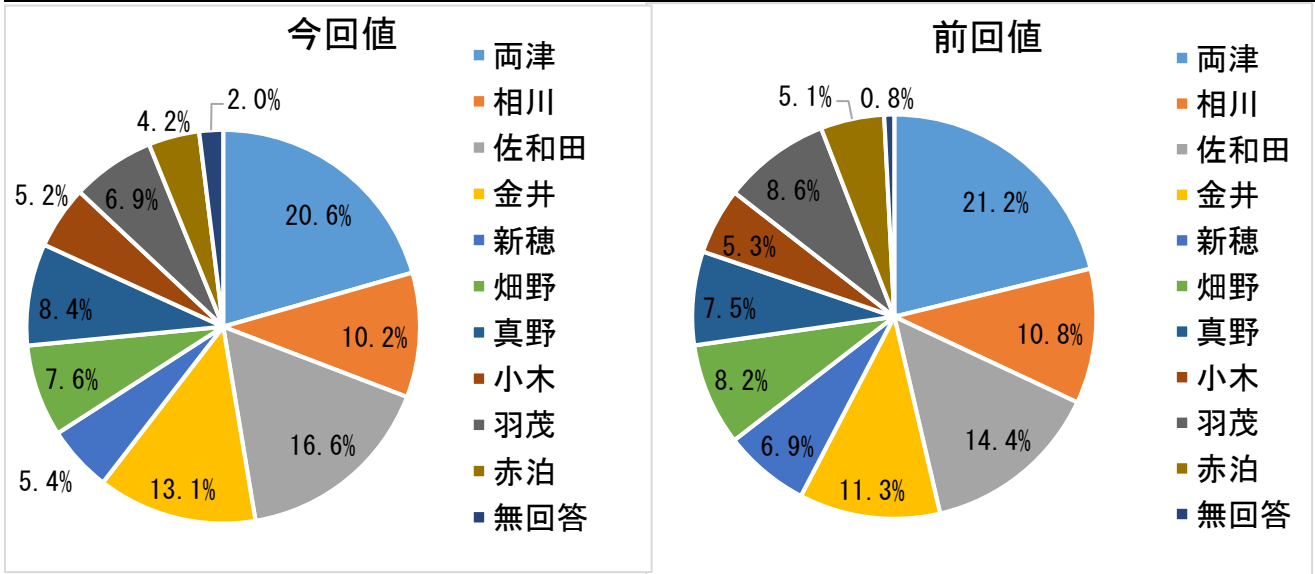
2 調査設計と回収状況

- (1) 調査対象 佐渡市に在住する満20 歳から69 歳までの男女
(前回：佐渡市に在住する満20 歳から69 歳までの男女)
- (2) 発送数 計3,000 通
(前回：2,000 通)
- (3) 抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出
(前回：住民基本台帳に基づく年代別抽出 (20 代～60 代各400 人))
- (4) 調査方法 郵送方式 (料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送)
(前回：郵送方式・郵便回収)
- (5) 調査期間 令和元年7月25日～8月30日
(前回：平成26年2月)
- (6) 回答数 (回答率) 1,123 通 (37.4%)
(前回 723 通 (36.2%)

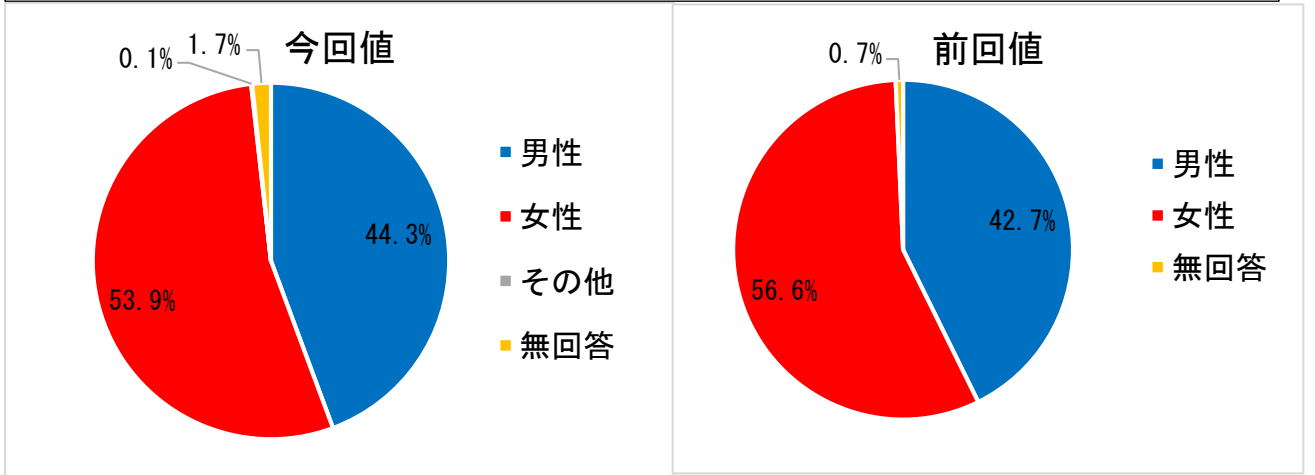
3 調査結果

I 回答者の傾向【問1～問8】

問1 あなたのお住まいはどちらですか。（〇は1つまで）												
	全体	両津	相川	佐和田	金井	新穂	畑野	真野	小木	羽茂	赤泊	無回答
前回	723	153	78	104	82	50	59	54	38	62	37	6
今回	1123	231	115	186	147	61	85	94	58	77	47	22



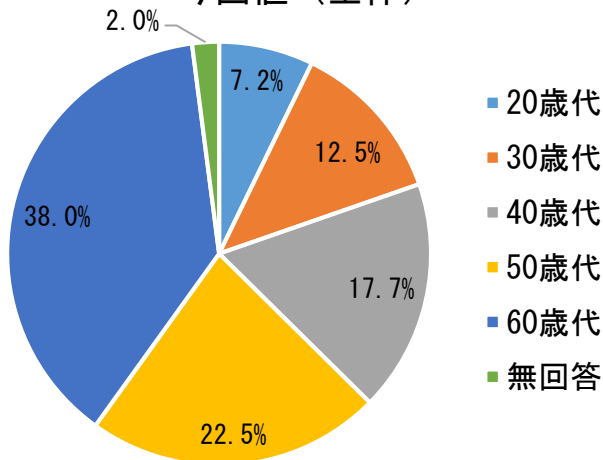
問2 あなたの性別を教えてください。（〇は1つまで）



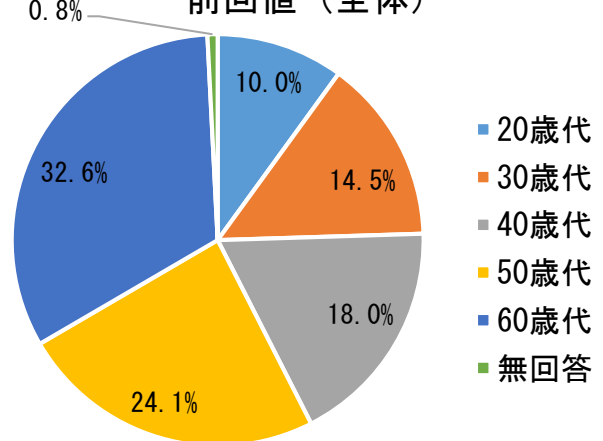
今回実施の市民意識調査では、問2の設問において、「その他」という回答項目を増設したが、回答者の性別について、前回の調査時と比較すると傾向としては大きな変動はなく、男性は498人（44.3%）、女性は605人（53.9%）と女性が多かった。

問3 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つまで)

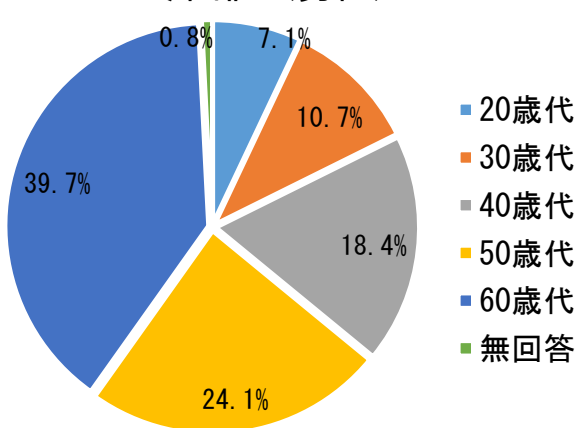
今回値 (全体)



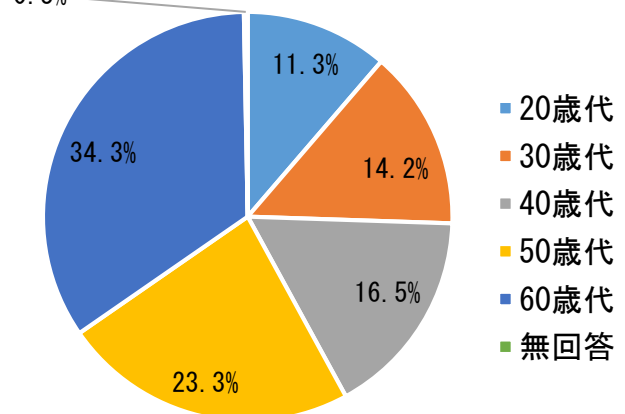
前回値 (全体)



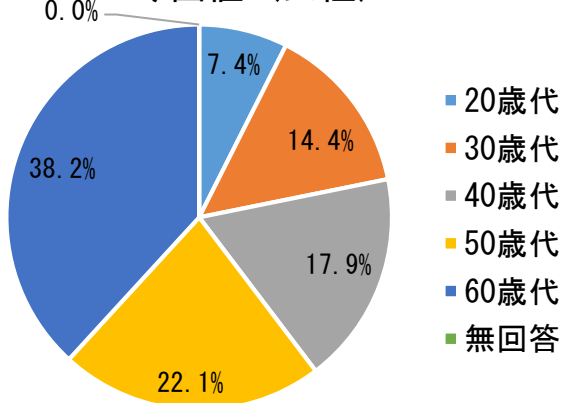
今回値 (男性)



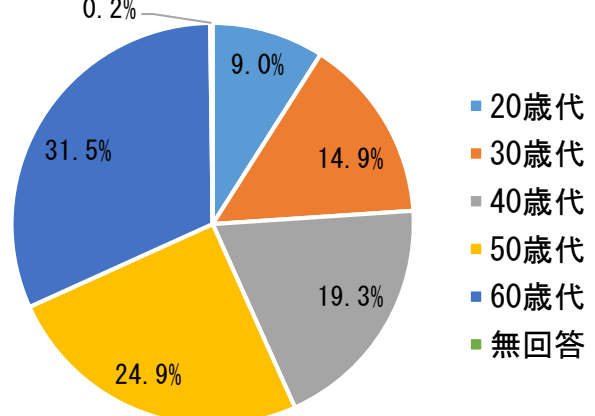
前回値 (男性)



今回値 (女性)

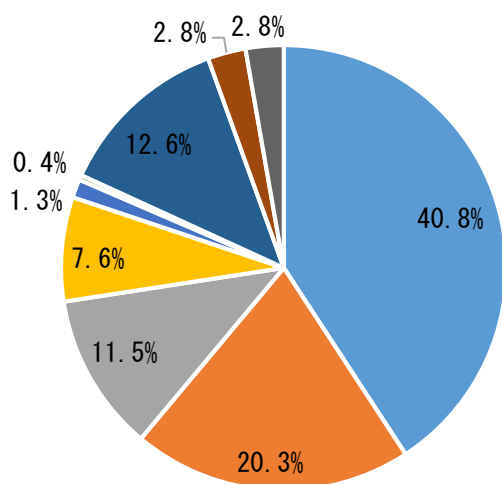


前回値 (女性)



回答者の年代は、男女ともに50歳代、60歳代の回答が多い。

問4 あなたのご職業は、次のどれに該当しますか。（○は1つまで）



- 1 勤め人（正規の社員・職員）
- 2 勤め人（パート等非正規職員）
- 3 自営業・家族従事者
- 4 家事専業
- 5 学生
- 6 内職・在宅ワーク
- 7 無職
- 8 その他
- 9 無回答

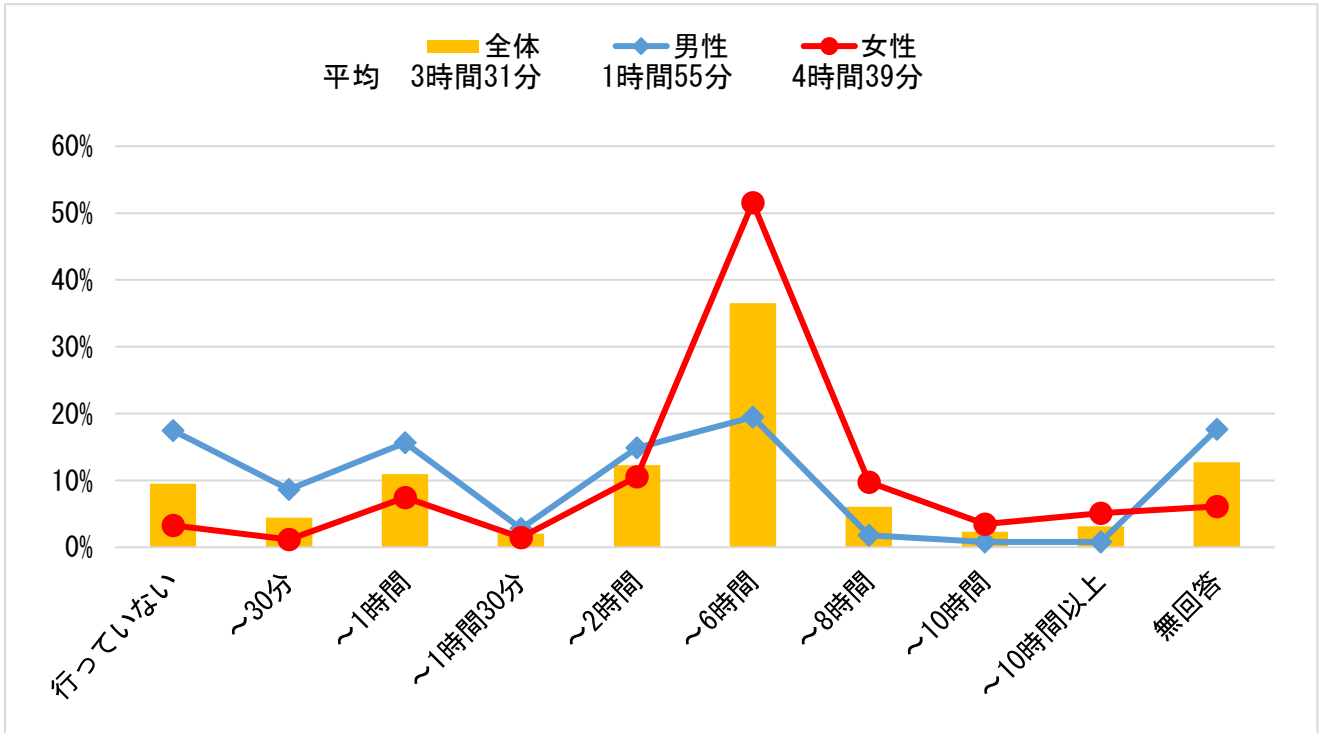
【参考：職業×性別】

	全体	男	女
1 勤め人（正規の社員・職員）	458	253	205
2 勤め人（パート等非正規職員）	228	55	173
3 自営業・家族従事者	129	75	54
4 家事専業	85	4	81
5 学生	15	8	7
6 内職・在宅ワーク	4	1	3
7 無職	142	83	59
8 その他	31	15	16
9 無回答	31	4	7

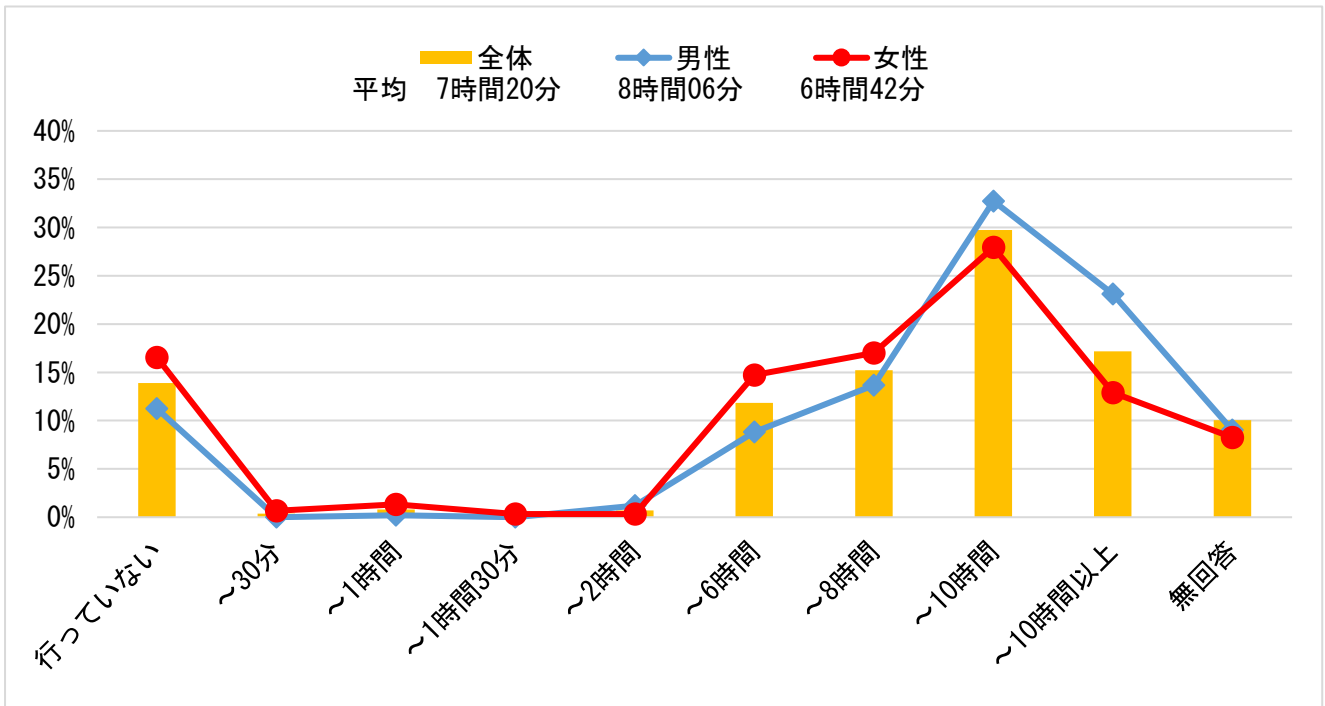
男性も女性も正規で勤めていると回答する人が多く、パート等の非正規労働である人については、男女で比較すると約3倍、非正規労働者については女性が多い結果となっている。

問5 あなたの平日1日の生活時間を分けて考えると、下記の項目はそれぞれ平均して何時間何分くらいになるか、時間を記入してください。※①～④の合計が24時間に満たなくても結構です。(日曜・休日などは含めずにお答えください。)

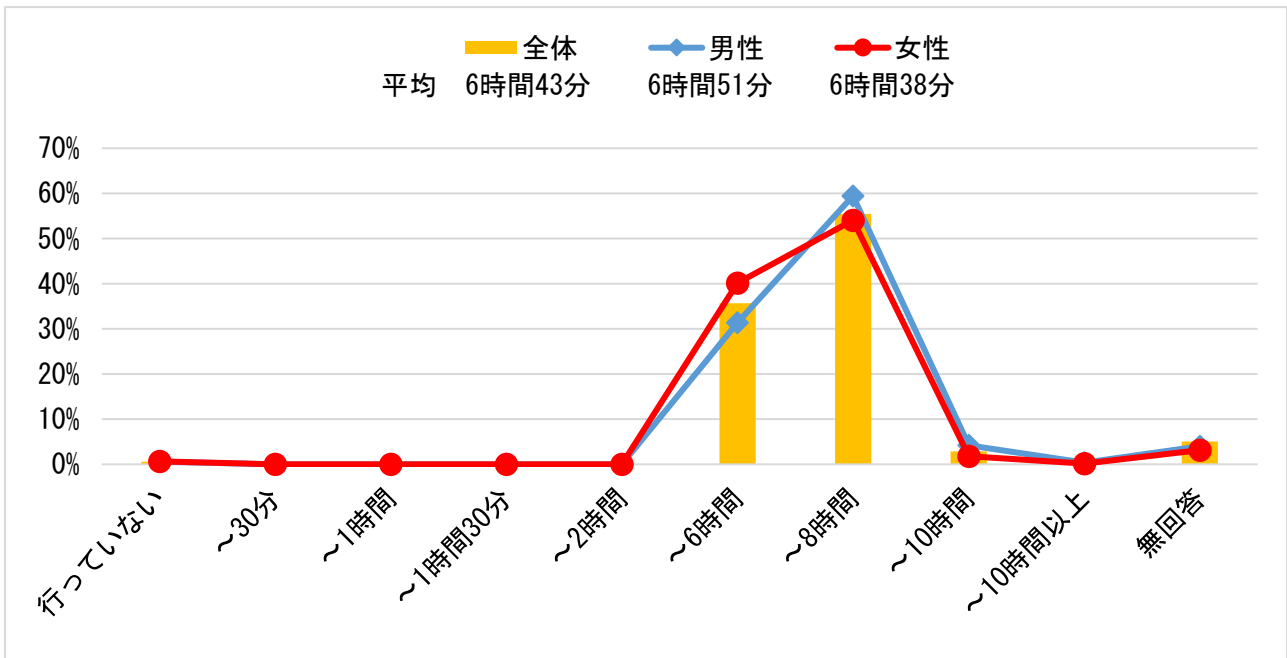
① 家事・育児・介護などの時間



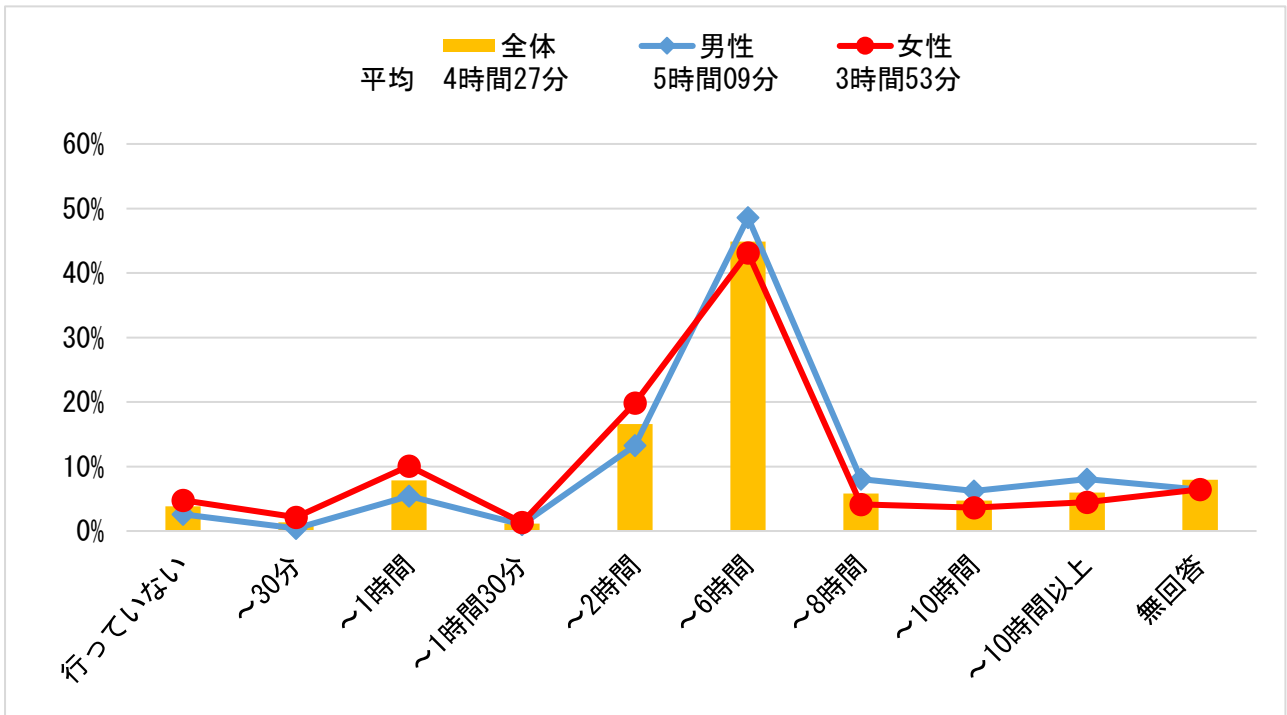
② 収入を得る仕事に使う時間 (通勤時間を含む)



③ 睡眠時間



④ 自分の自由に使える時間



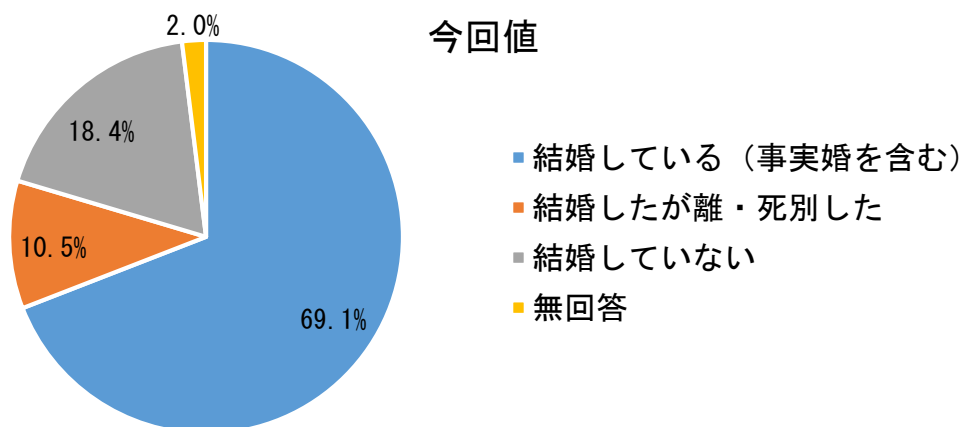
「収入を得る仕事に使う時間」の平均は、男性が8時間6分、女性6時間42分と1時間程度の差なのに対し、「家事・育児・介護などの時間」については、男性の平均は1時間55分、女性は4時間39分と女性の負担が非常に多くなっており、男性の家事・育児・介護などへの参加を推進する必要がある。「睡眠時間」は男女で平均に大きな差はなく、「自分の自由に使える時間」で男性のほうが自由に使える時間が1時間程度多いという傾向になっている。

【参考：前回との比較】

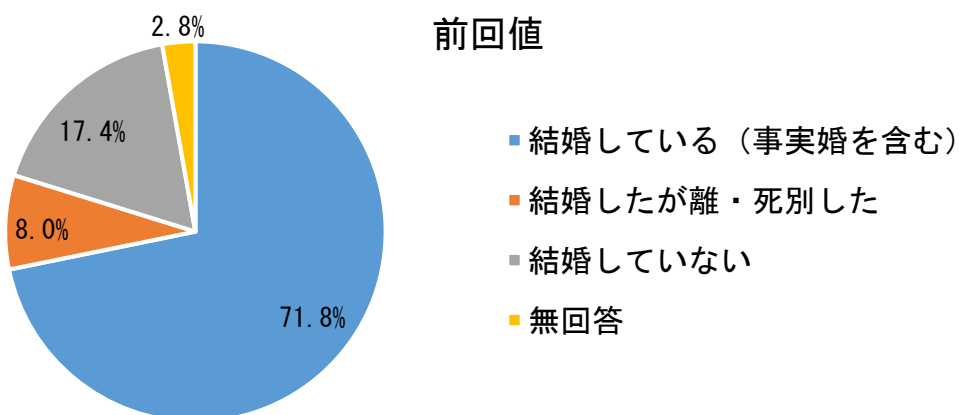
項目		前回	今回	増減
家事・育児・介護等	全体	3時間30分	3時31分	1分減少
	男性	1時間43分	1時55分	12分減少
	女性	4時間38分	4時39分	1分増加
収入を得る仕事	全体	7時間44分	7時20分	24分減少
	男性	8時間32分	8時06分	26分減少
	女性	7時間03分	6時42分	21分減少
睡眠	全体	6時間53分	6時43分	10分減少
	男性	6時間57分	6時51分	6分減少
	女性	6時間49分	6時38分	11分減少
自由	全体	4時間15分	4時27分	12分増加
	男性	4時間53分	5時09分	16分増加
	女性	3時間45分	3時53分	8分増加

問6 あなたは、現在結婚されていますか。（○は1つまで）

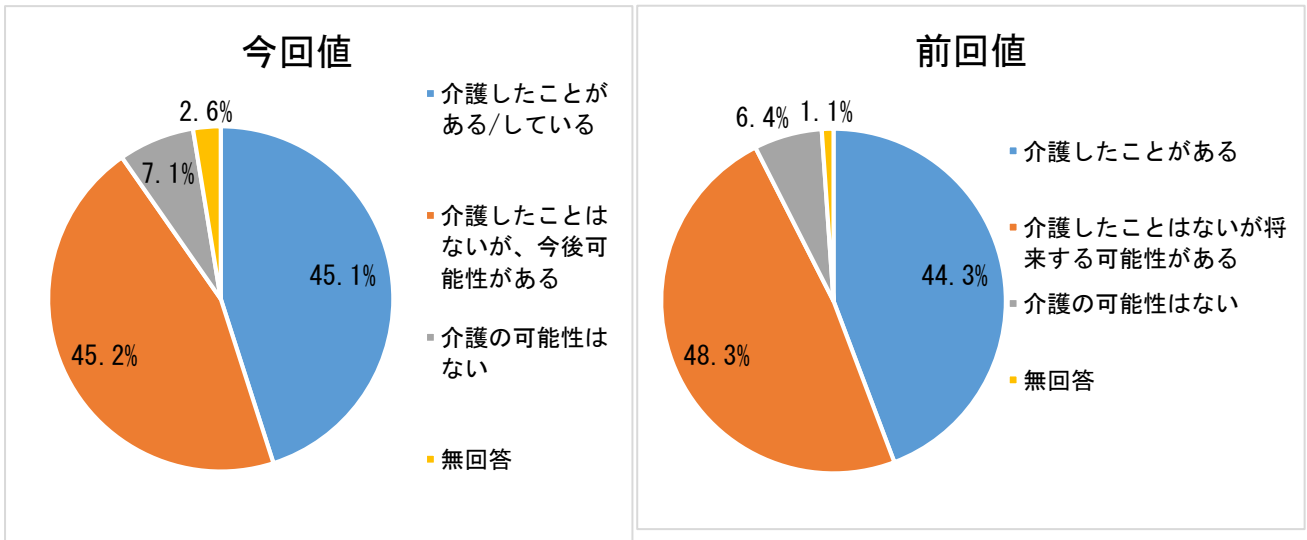
今回値



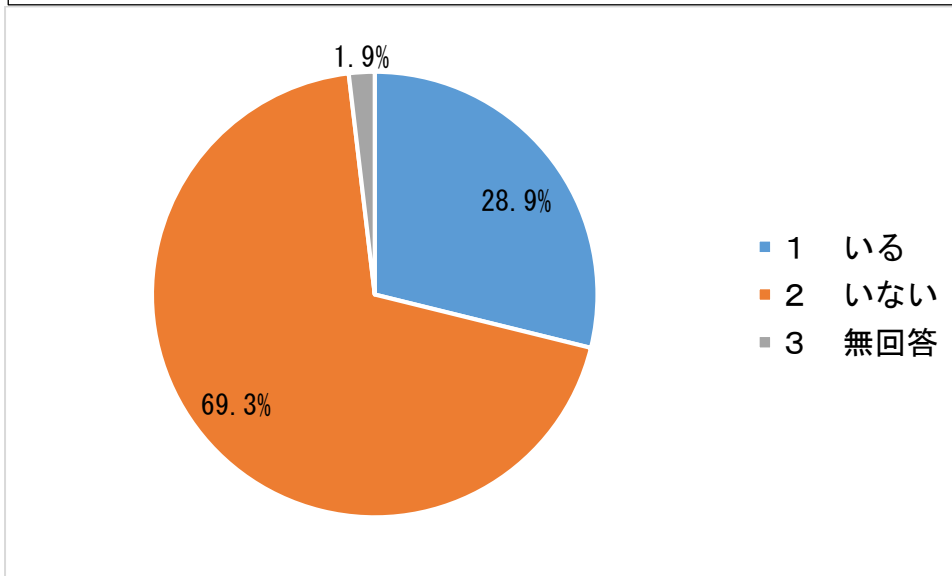
前回値



問7 あなたは、家族の介護をしたことがありますか。（○は1つまで）



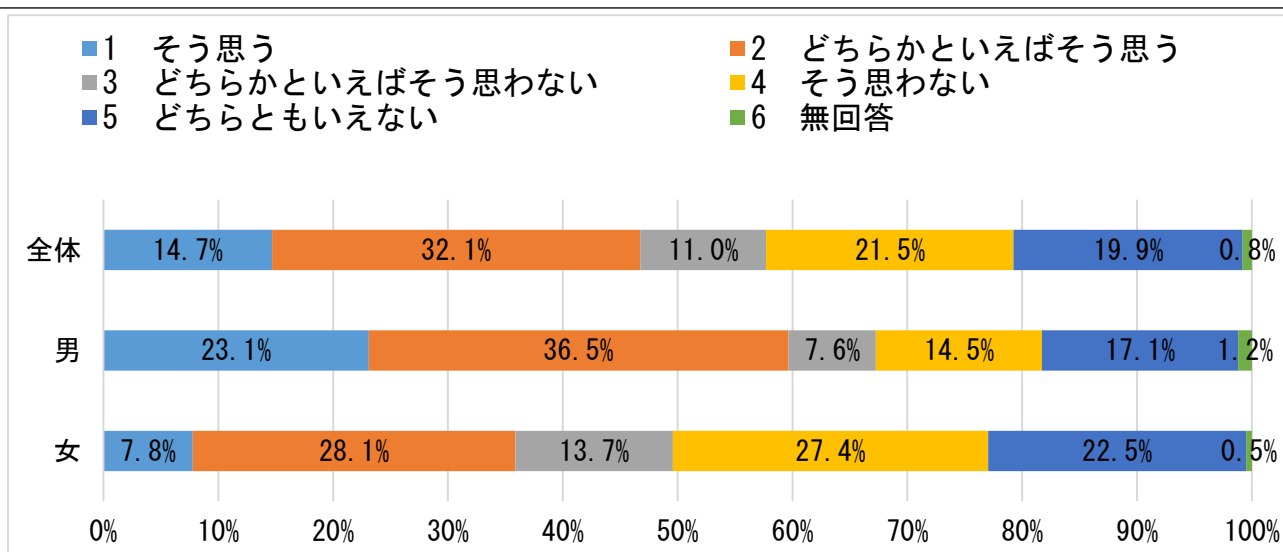
問8 あなたには、お子さん（令和年度末時点で、18歳未満のお子さん）がいらっしゃいますか。（○は1つまで）



回答者には、結婚されている方が多く、また子育て中であると回答した人は3割弱であった。家族の介護については、「介護したことがある/している」、「介護したことはないが、今後可能性がある」と回答した人は、9割を超えており、生活と介護の関連度の高さが窺える。

II 家庭・地域について（問9～問14）

問9 あなたは「男の子は男の子らしく/女の子は女の子らしく育てた方がよい」という考え方についてどう思いますか。（例…男の子はたくましく、女の子は優しく）（〇は1つまで）



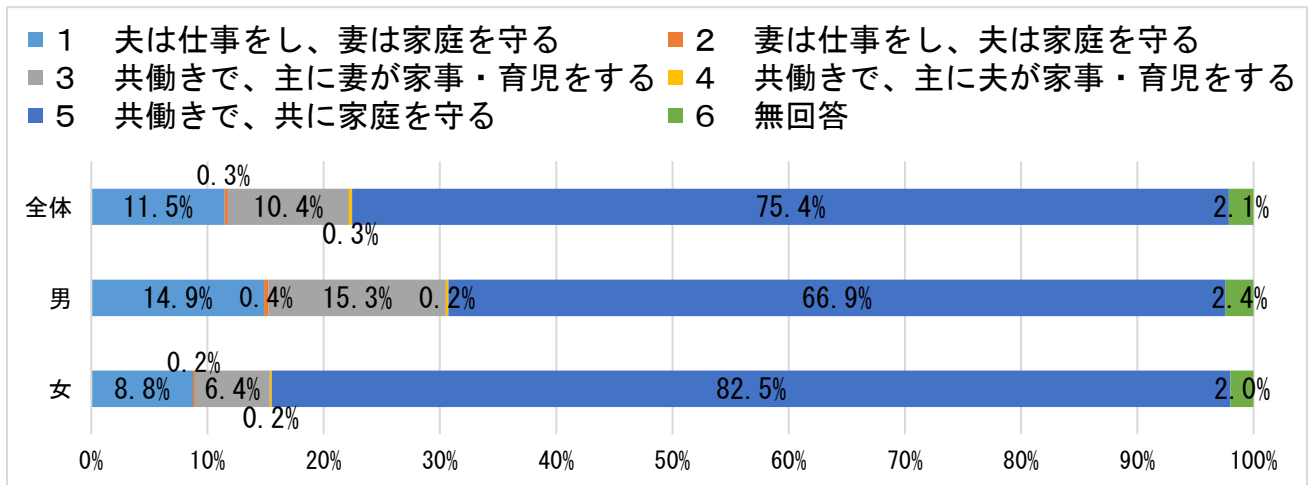
「男の子は男の子らしく/女の子は女の子らしく育てた方がよい」という考え方について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が、前回の調査から17.1%減少し46.8%となり、全体としては、性別分担役割意識の解消が進んでいる。しかし、男女別に分析すると、男性は59.6%の人が「男らしく、女の子らしく育てた方がよい」という考え方について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答しており、性別分担役割意識が強いことが窺える。

【参考：前回との比較】

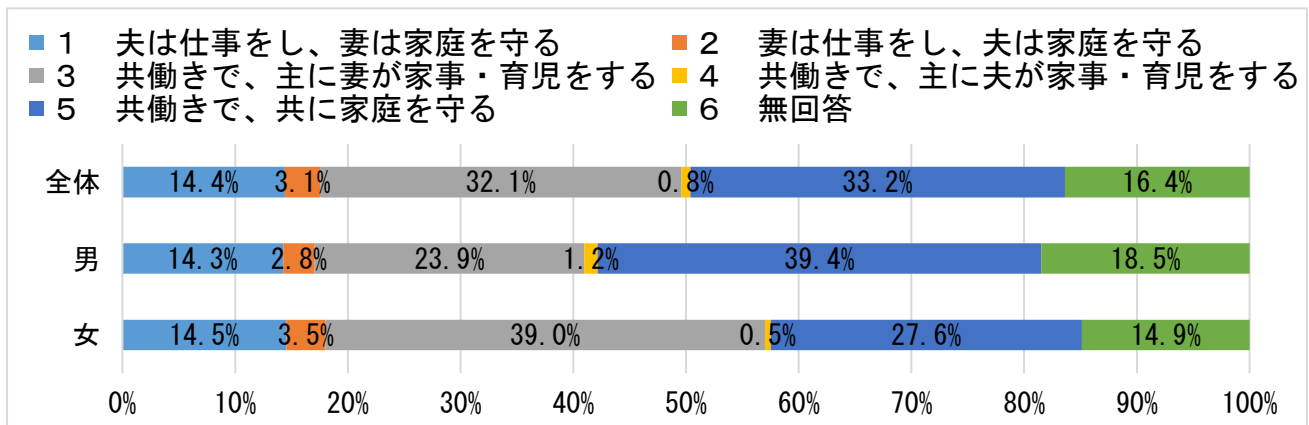
	前回値	今回値	増減
1 そう思う	23.0%	14.7%	-8.3%
2 どちらかといえばそう思う	40.9%	32.1%	-8.8%
3 どちらかといえばそう思わない	8.2%	11.0%	2.8%
4 そう思わない	10.2%	21.5%	11.3%
5 どちらともいえない	16.5%	19.9%	3.4%
6 無回答	1.2%	0.8%	-0.4%

問10 「仕事」と「家庭」の優先度についてお尋ねします。

問10-I まず、あなたの希望に最も近いものはどれですか。(○は1つまで)



問10-II それでは、あなたの現状に最も近いものはどれですか。(○は1つまで)

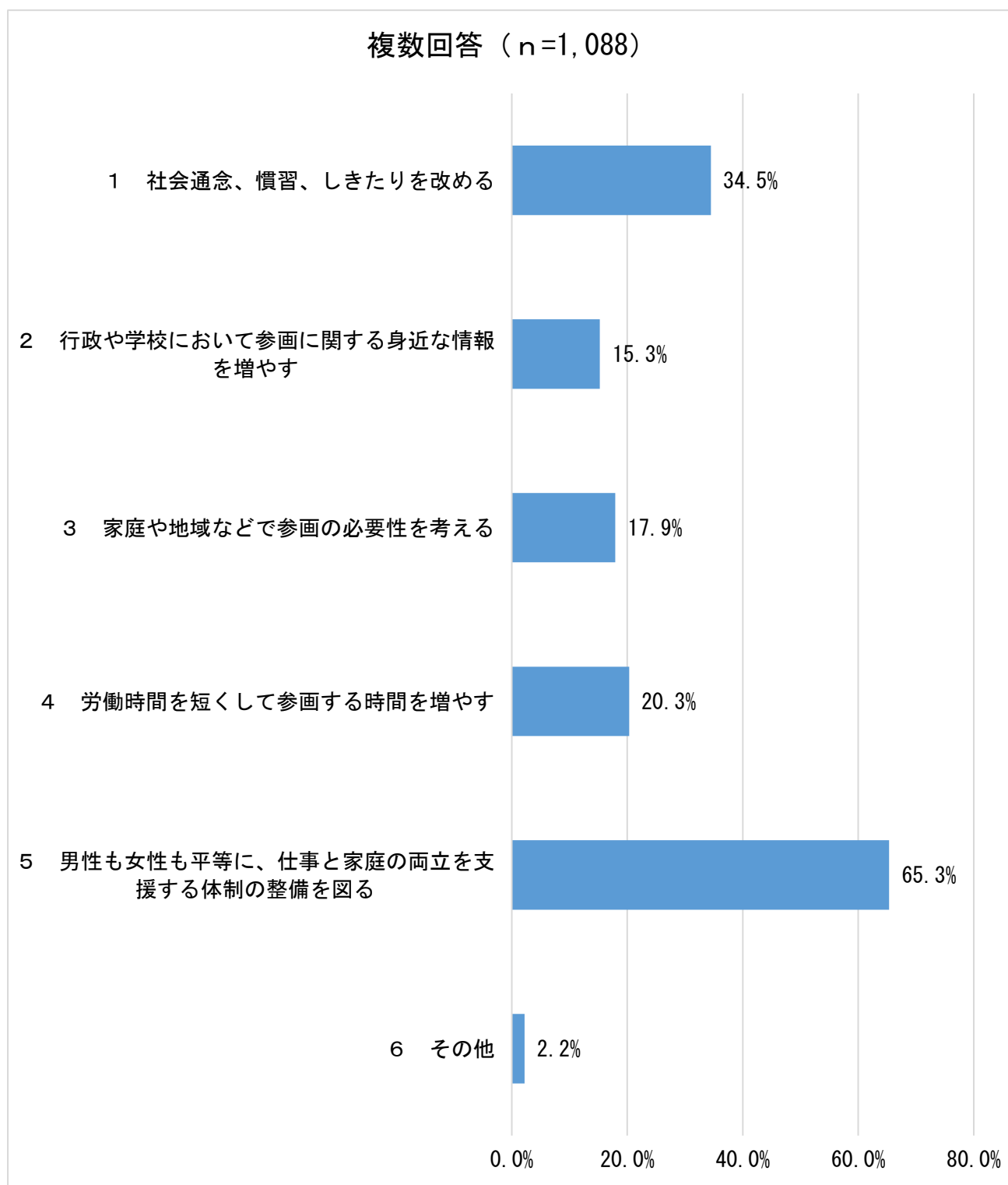


「共働きで、共に家庭を守る」を理想としている人が7割程度を占めるが、現状については、「共働きで、主に妻が家事・育児をする」人の割合が最も多く、女性の負担が大きくなっている。

【参考】前回調査時に下記項目に対し、「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した人の人数。()内は、全体に対する回答者の割合。

項目	そう思う・どちらかといえば思う
夫は仕事をし、妻は家庭を守る	305 (42.2%)
妻は仕事をし、夫は家庭を守る	20 (2.8%)
夫も妻も仕事をし、主に妻が家事、育児をきちんとする	297 (41.1%)
夫も妻も仕事をし、主に夫が家事・育児をする	34 (4.7%)
夫も妻も仕事をし、共に家庭を守る	657 (90.9%)
女性は結婚したら自分のことより家庭を中心に考える	352 (48.7%)

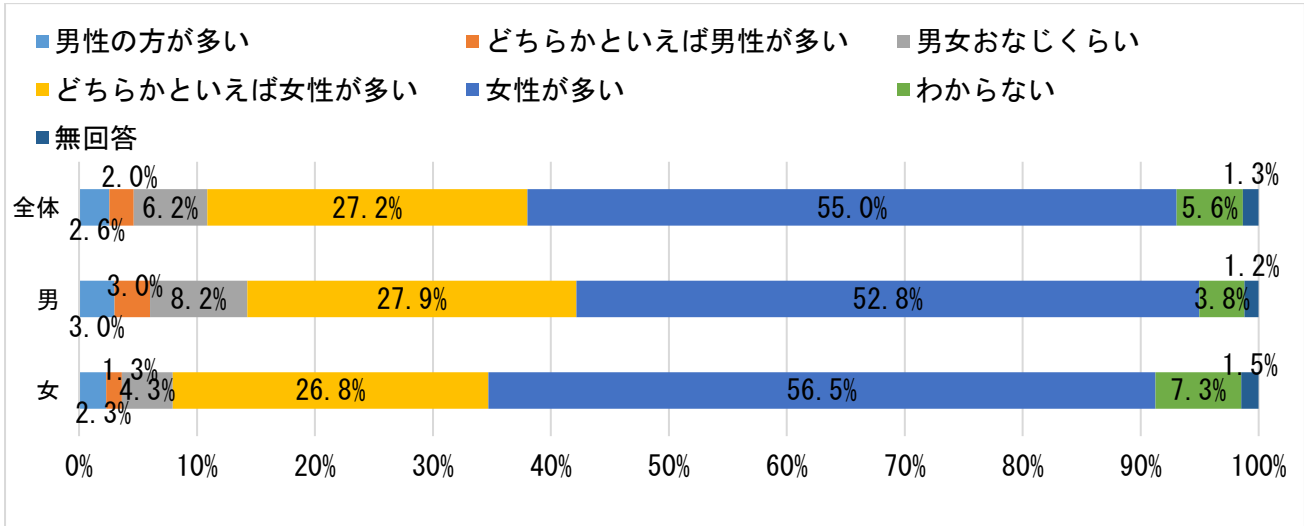
問 11 今後、男女がともに家事・子育てをしながら、教育、地域活動に積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)



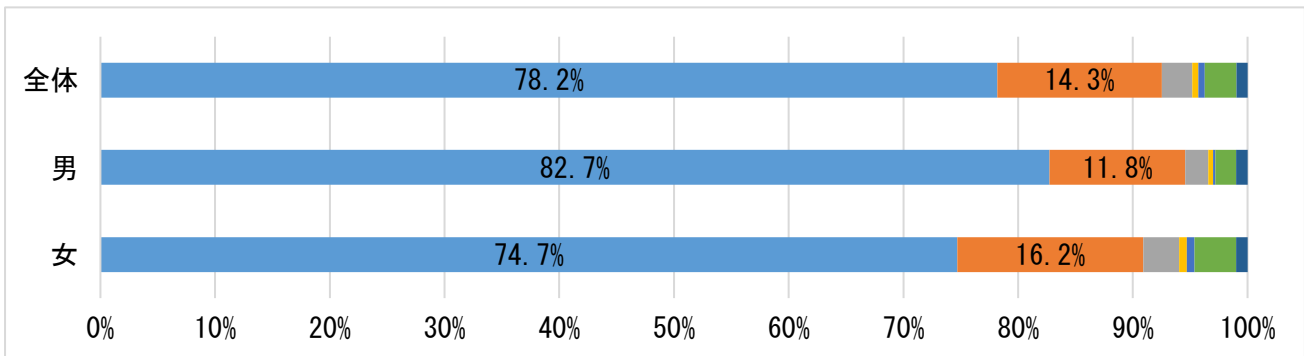
今後、男女がともに家事・育児・介護をしながら、教育や地域活動に積極的に参画していくために必要なことについては、「男性も女性も平等に、仕事と家庭の両立を支援する体制の整備を図る」というのが最も多かった。

問 12 次の慣行・地域活動などにおいて、男性と女性のどちらが担当することが多いですか。1～3のそれぞれについてア～カのうちから選んでください。(〇は各1つまで)

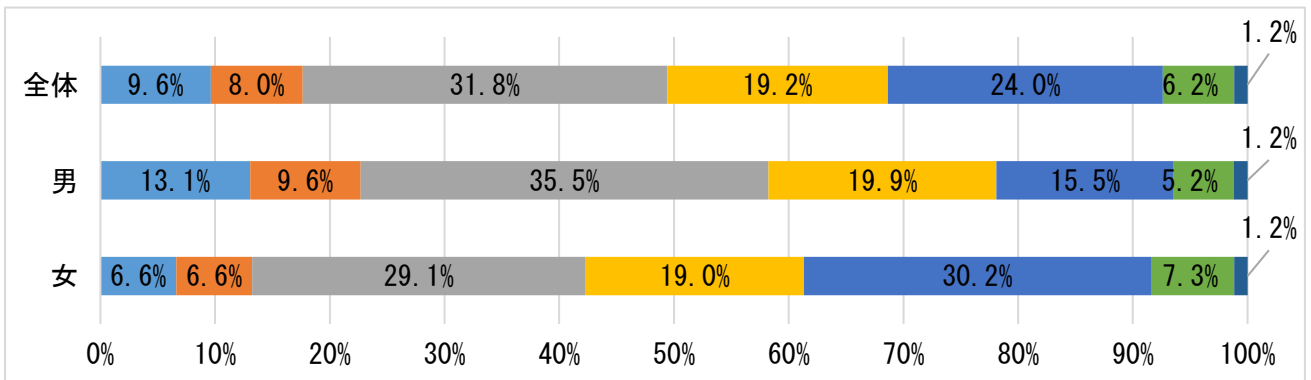
① 葬祭の会合でお茶や料理などの準備をする人



② 自治会長や町内会長、集落長

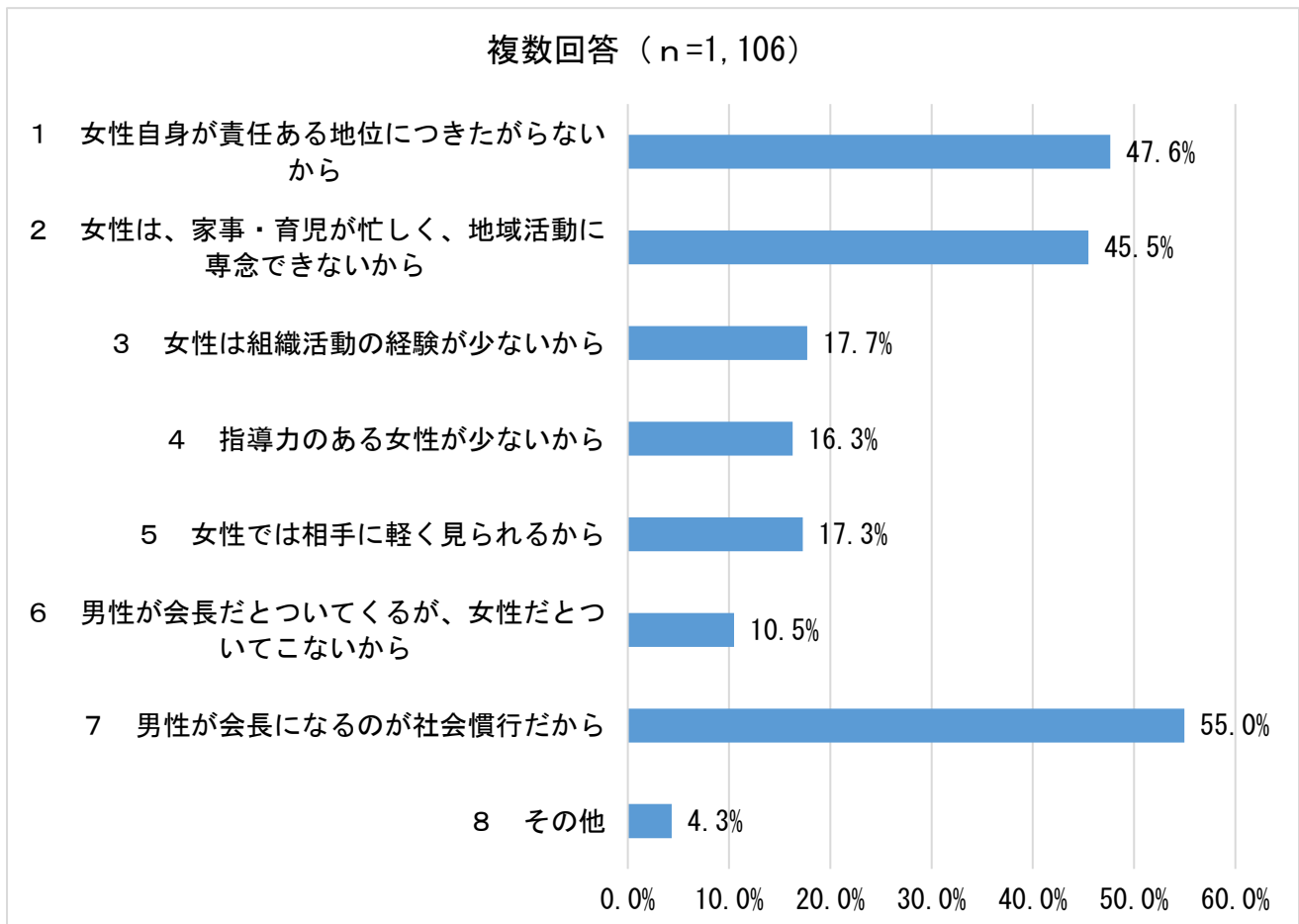


③ 家庭内のゴミ出しをする人



①葬祭の会合でお茶や料理などの準備をする人については、女性が多く、②自治会長や町内会長、集落長は男性が多い傾向であった。③家庭内のゴミ出しをする人については、概ね男女同じくらいという回答が多く見られた。

問 13 集落やPTAなど地域団体では、集落長やPTA会長など役員の長には男性が多いようです。その主な原因は何だと思えますか。(〇は3つまで)

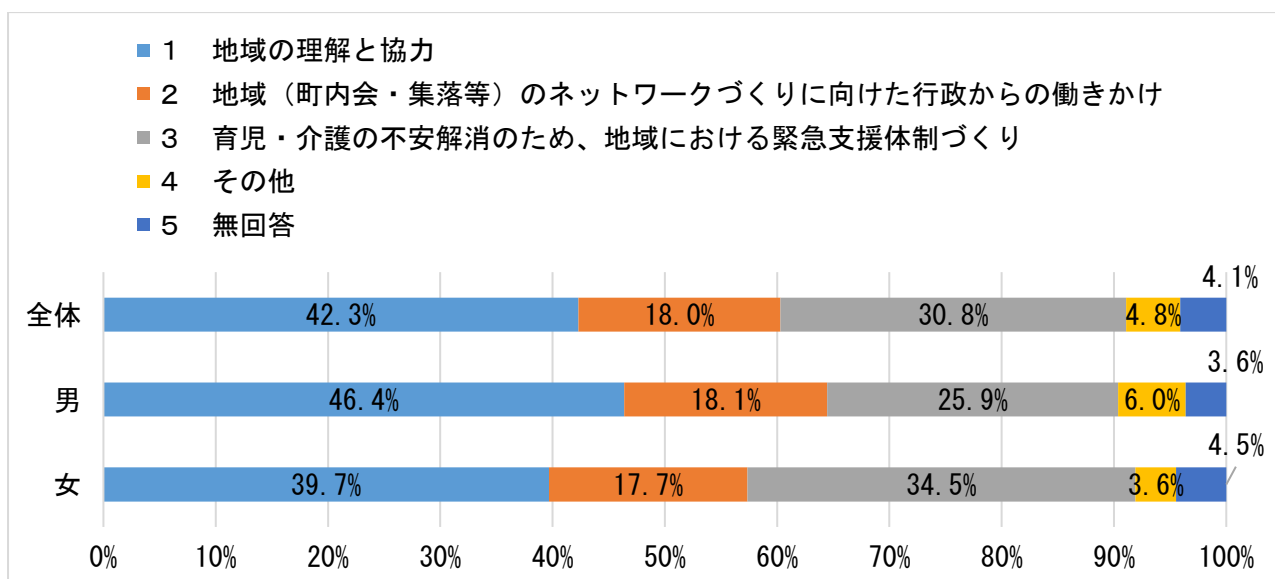


【参考:男女別割合】※回答の多い順に桃・橙・黄色

	全体	男性	女性
1 女性自身が責任ある地位につきたがらないから	47.6%	50.8%	45.3%
2 女性は、家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから	45.5%	38.7%	51.7%
3 女性は組織活動の経験が少ないから	17.7%	14.1%	20.4%
4 指導力のある女性が少ないから	16.3%	14.1%	17.6%
5 女性では相手に軽く見られるから	17.3%	11.5%	21.9%
6 男性が会長だとしてくるが、女性だとしてこないから	10.5%	6.4%	13.7%
7 男性が会長になるのが社会慣行だから	55.0%	62.7%	48.8%
8 その他	4.3%	4.1%	4.7%

全体としては、「男性が会長になるのが社会慣行だから」という回答が最も多かった。男女別に見ると、男性は「男性が会長になるのが社会慣行だから」、女性は、「女性は、家事・育児が忙しく、地域活動に専念できないから」となっており、社会慣行という理由よりも、家事・育児等で多忙なため、地域活動に専念できないという回答が多くなっている。

問 14 これから育児や介護をしながら働く際に、地域の力として何が必要だと思いますか。
 (〇は1つまで)

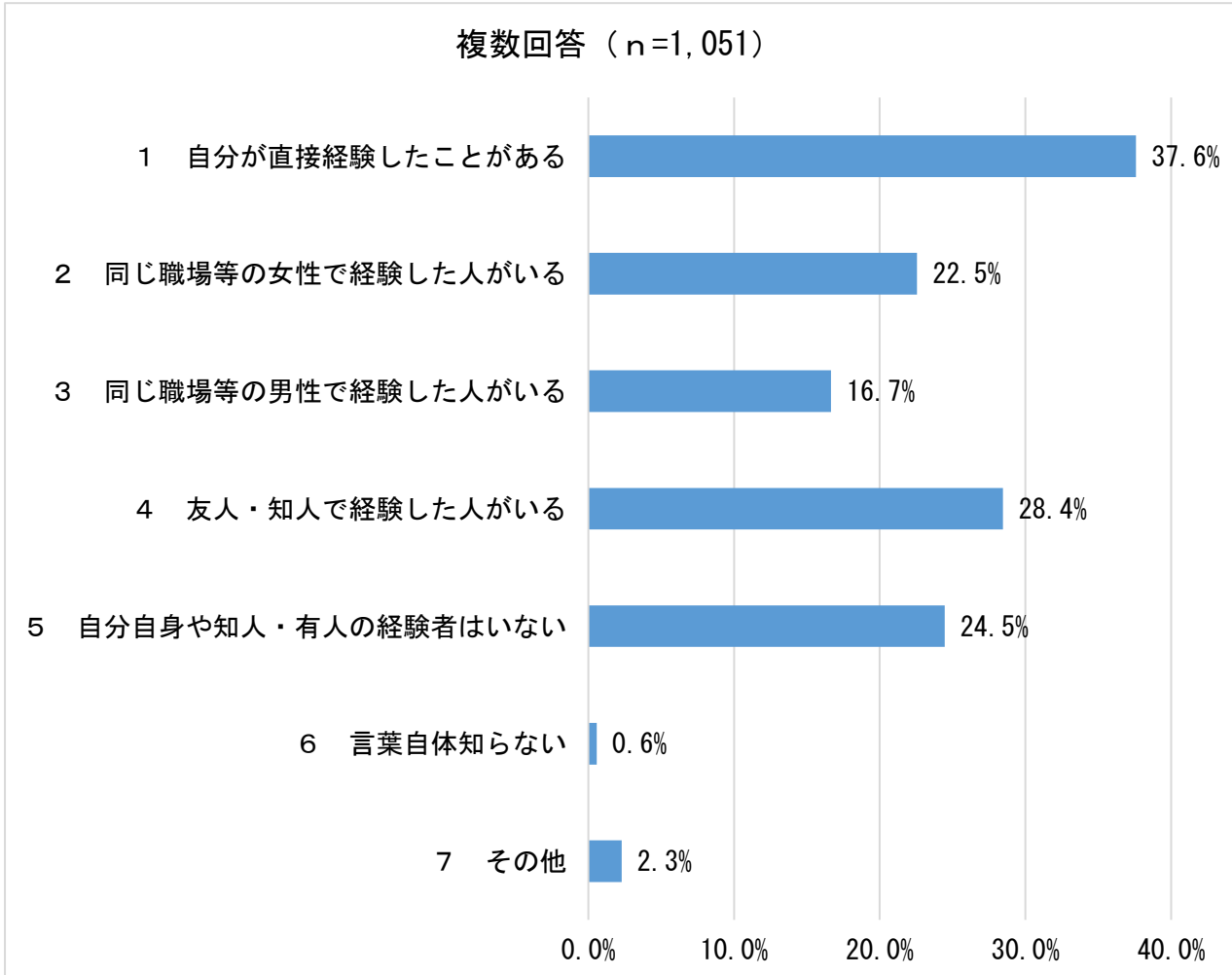


育児や介護をしながら働く際に、地域の力としては、「地域の理解と協力」という回答が最も多かった。また、女性は「地域の理解と協力」と同じくらいの割合で「育児・介護の不安解消のため、地域におけるネットワークづくり」が必要であると回答している。

Ⅲ 就業・職場について（問15～問20）

問15 ハラスメントについてお尋ねします。

問 15-I あなたは、ハラスメント（嫌がらせ）を経験したこと、聞いたことがありますか。
（○はあてはまるもの）

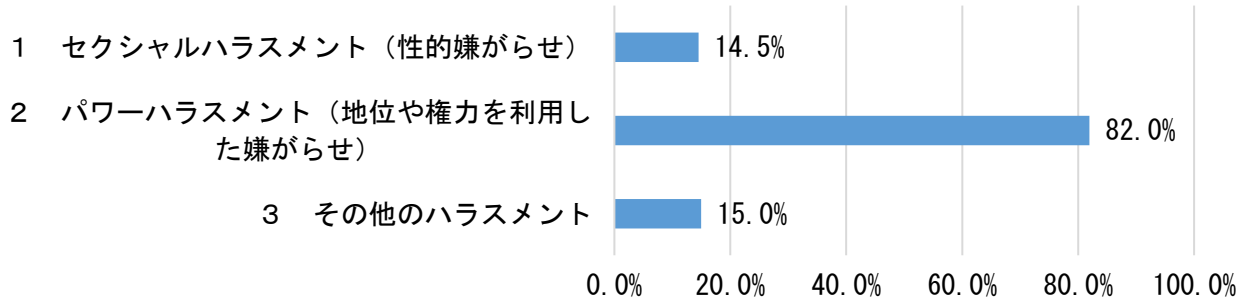


【参考：男女別割合】※回答の多い順に桃・橙・黄色

	全体	男性	女性
1 自分が直接経験したことがある	37.6%	34.3%	39.8%
2 同じ職場等の女性で経験した人がいる	22.5%	18.0%	26.4%
3 同じ職場等の男性で経験した人がいる	16.7%	22.7%	12.0%
4 友人・知人で経験した人がいる	28.4%	28.3%	28.2%
5 自分自身や知人・有人の経験者はいない	24.5%	24.7%	24.5%
6 言葉自体知らない	0.6%	0.9%	0.4%
7 その他	2.3%	2.4%	2.1%

問 15-Ⅱ 問 15-I で「1 自分が直接経験したことがある」と回答された方にお尋ねします。どのようなハラスメントを経験しましたか。(○はあてはまるもの)

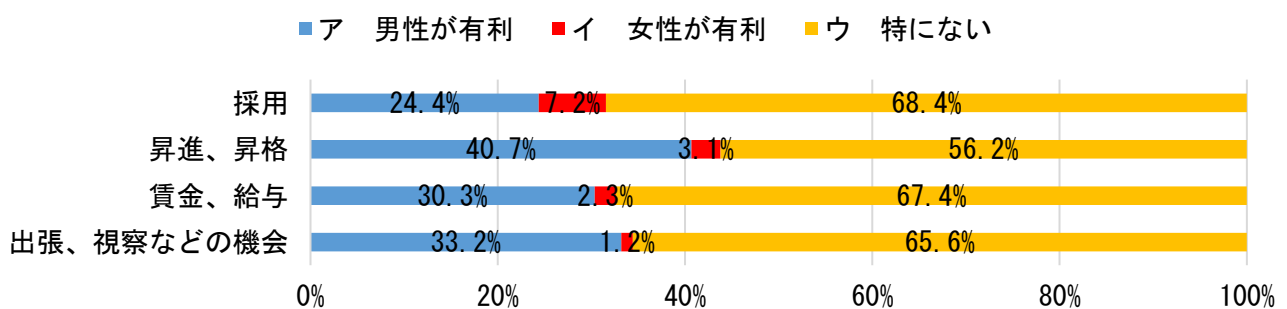
複数回答 (n=427)



前回の調査では、セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ) の被害に限った質問であったため、男女共に半数以上が「自分自身や知人・友人の経験者はいない」という回答を占めていた。本調査では、広くハラスメント被害についての調査を行ったところ、「自分が直接経験したことがある」と回答した人が全体の約4割を占めた。

特に「自分が直接経験したことがある」と回答した人に対し、どのようなハラスメントを受けたかについて調査したところ、パワーハラスメント (地位や権力を利用した嫌がらせ) が8割程度を占める結果となった。その他については、マタニティ・ハラスメントやモラルハラスメント等が挙げられていた。

問 16 現在、お勤め中の方にお尋ねします。あなたの職場では次のような場合にどちらが有利だと思いますか。1~3のそれぞれについてア~ウから選んでください。(○は各1つまで)



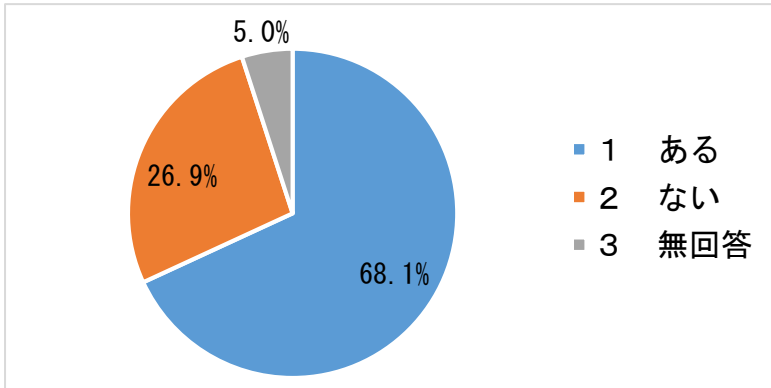
【参考:前回値】

	男性が有利	女性が有利	特にない
募集、採用、職種	29.4%	9.7%	60.8%
昇進、昇格、賃金	37.9%	1.3%	60.8%
出張・視察などの機会	29.9%	1.5%	68.6%

「採用」、「賃金、給与」、「出張、視察などの機会」については、前回よりも、男女差は「特にない」と回答した人の割合が増加しているが、「賃金、給与」については他の項目よりも男性が有利であるという回答が多い。

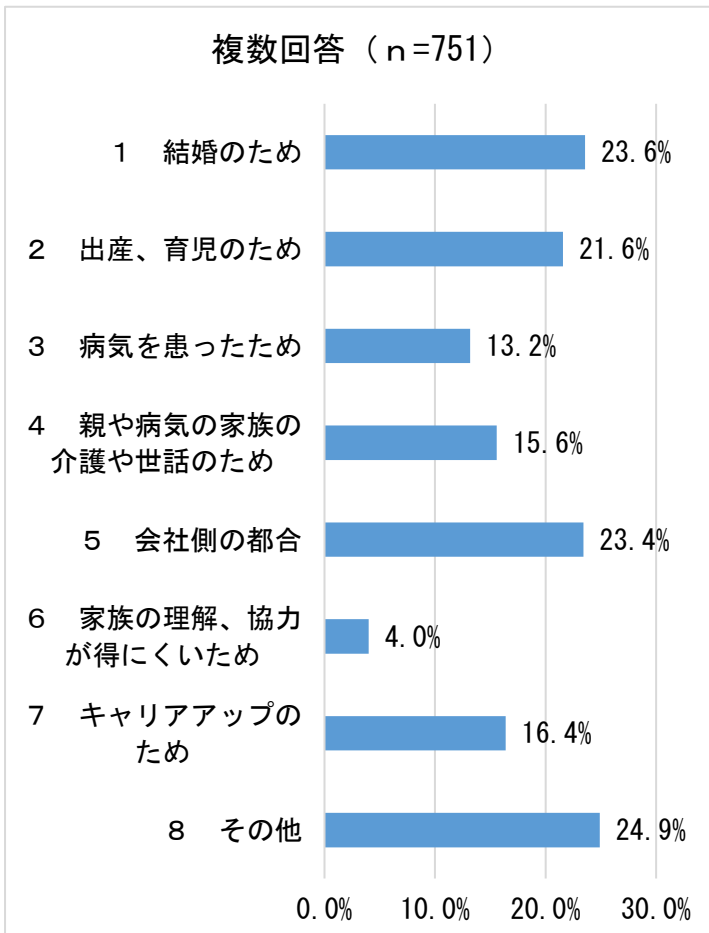
問17 退職、転職についてお尋ねします。

問 17-I あなたは今までに仕事を辞めたり、転職したりしたことがありますか。(○は1つまで)



問 17-II 問 17-I で「1 ある」と回答した方にお尋ねします。仕事をやめたり、中断したり、あるいは転職した理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

【今回】



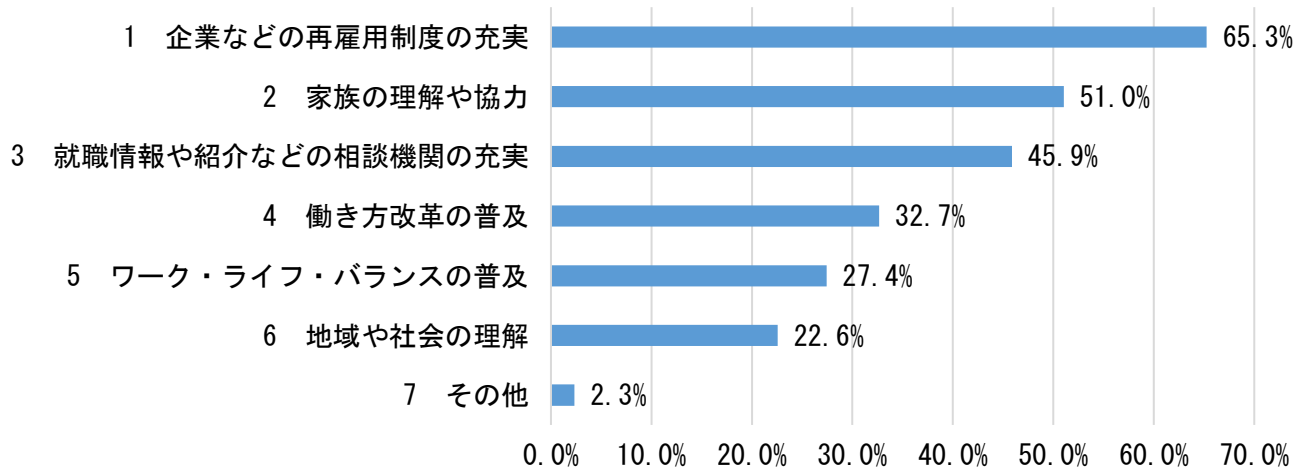
【前回値】※回答数が多い順に、桃・橙・黄色

項目	割合
1 結婚のため	13.3%
2 出産、育児のため	15.3%
3 自分の健康や体力の問題	12.2%
4 高齢になったため	4.4%
5 仕事の内容があわなかったため	6.4%
6 親や病気の家族の介護や世話のため	6.2%
7 労働条件に対する不満があったため (賃金・労働環境等)	6.7%
8 よりよい条件の仕事があったから	6.4%
9 長期勤務しにくい職場の雰囲気があったため	3.8%
10 家業につくため	4.0%
11 会社側の都合	6.0%
12 配偶者の転勤のため	1.6%
13 家族の理解、協力が得にくいため	0.4%
14 大学その他で勉強するため	0.4%
15 特に理由はない	2.9%
16 その他	9.8%

退職・転職の理由としては、「1 結婚のため」、「5 会社側の都合」が多かった。その他としては、「UIターンのため」や、「パワハラや人間関係」という回答が多く見られた。

問 18 あなたは、家事・育児・介護のため、いったん仕事を辞めても再就職するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

複数回答 (n=1,068)



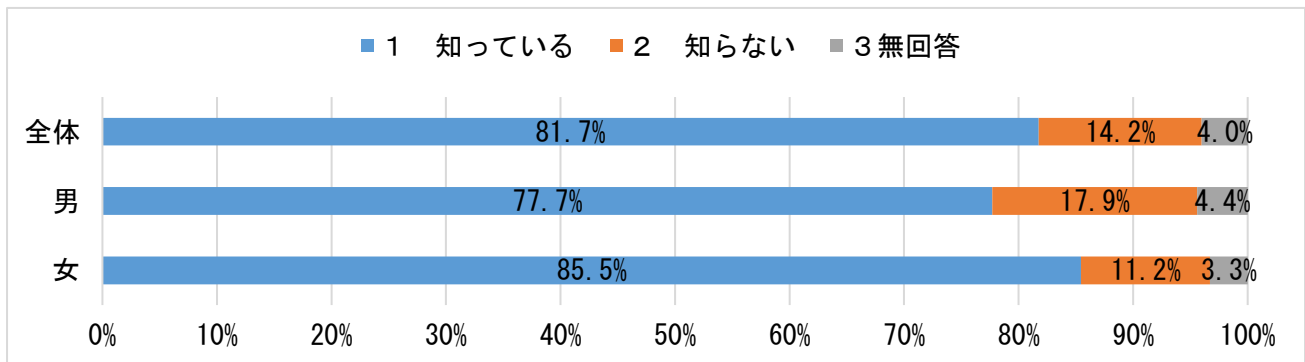
【参考：前回値】※回答数が多い順に、桃・橙・黄色

項目	割合
1 就職情報や紹介などの相談機関の充実	14.8%
2 技能習得のための訓練施設の充実	10.1%
3 企業などの再雇用制度の充実	20.0%
4 労働時間の短縮	10.9%
5 フレックスタイム制や在宅勤務などの普及	9.7%
6 家族の理解や協力	19.0%
7 地域や社会の理解	9.6%
8 就職にあたっての意識・心構えなどの再訓練の場	3.8%
9 必要なことはない	0.2%
10 わからない	1.3%
11 その他	0.5%

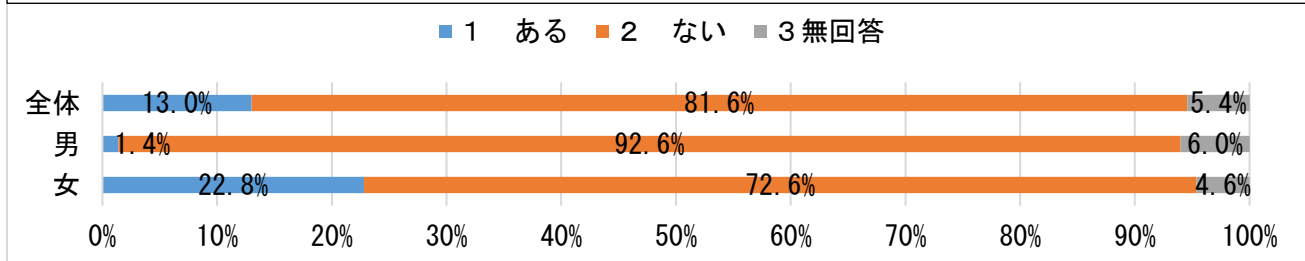
家事・育児・介護のため、いったん仕事を辞めても再就職するために、どのようなことが必要かという問いにたいして、「家族の理解や協力」、「企業などの再雇用制度の充実」、「就職情報や紹介などの相談機関の充実」が上位3項目であった。

問19 育児休業制度に関してお尋ねします。

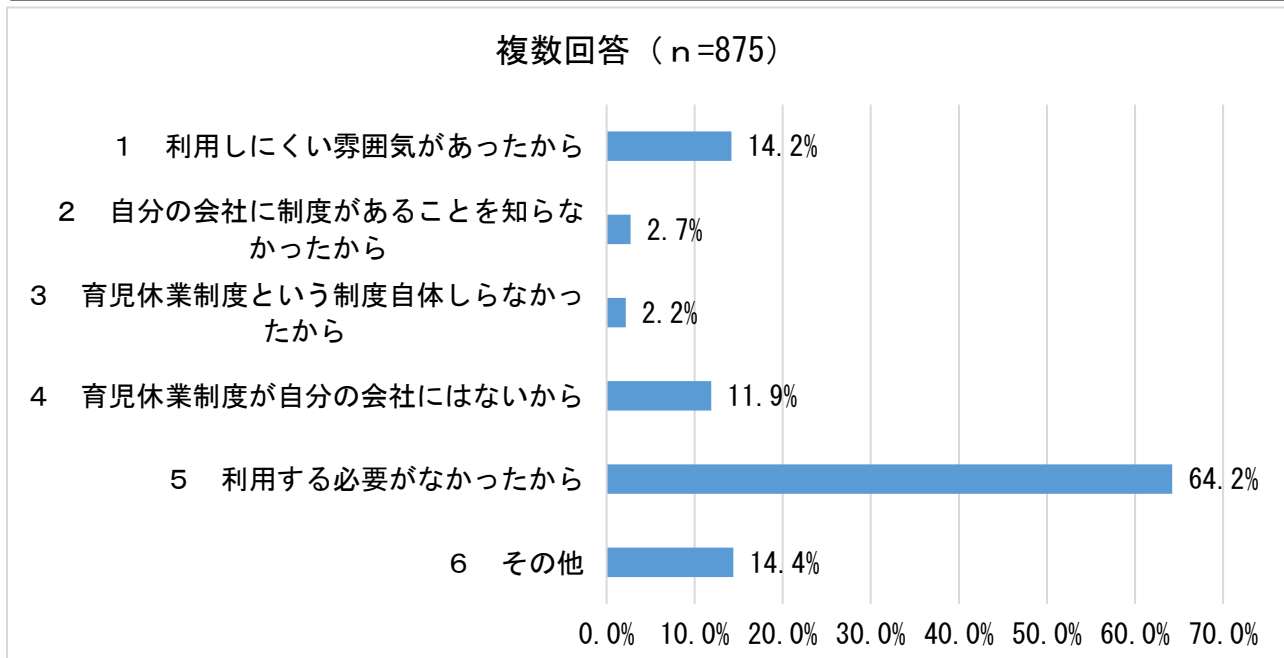
問 19-I 育児休業制度の内容をご存知ですか。(〇は1つまで)



問 19-II 育児休業制度を利用したことがありますか。(〇は1つまで)



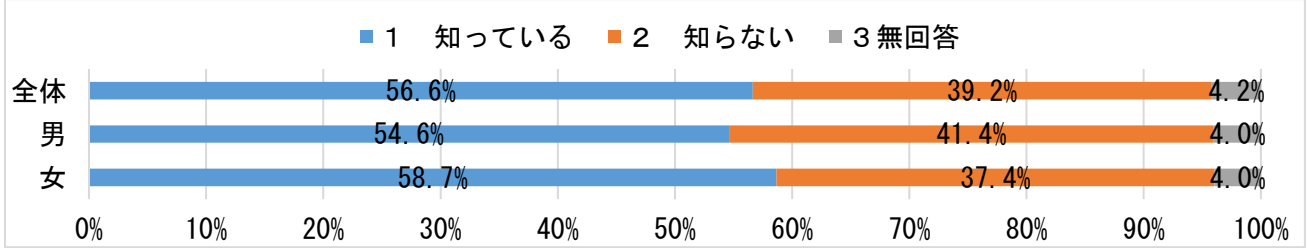
問 19-III 問 19-IIで、「2 ない」と回答した方にお伺いします。利用しなかった理由はなんですか。(〇はあてはまるものすべて)



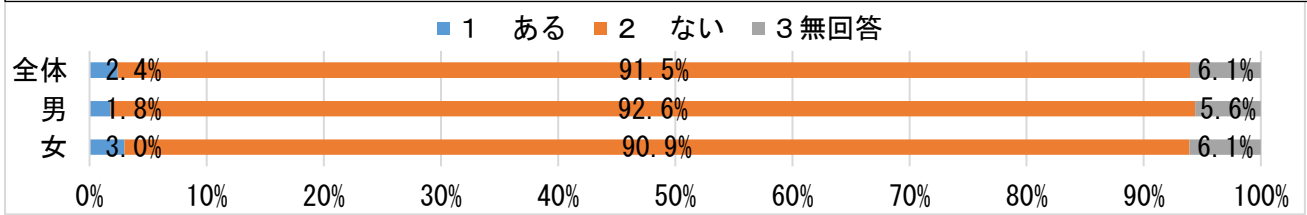
育児休業制度（以下、育休）についての認知度は、男女ともにおおむね8割程度であり、認知度は非常に高い結果となっている。しかし、男性の育休取得者は、約1.4%と非常に低い数値となっている。

問20 介護休業制度についてお尋ねします。

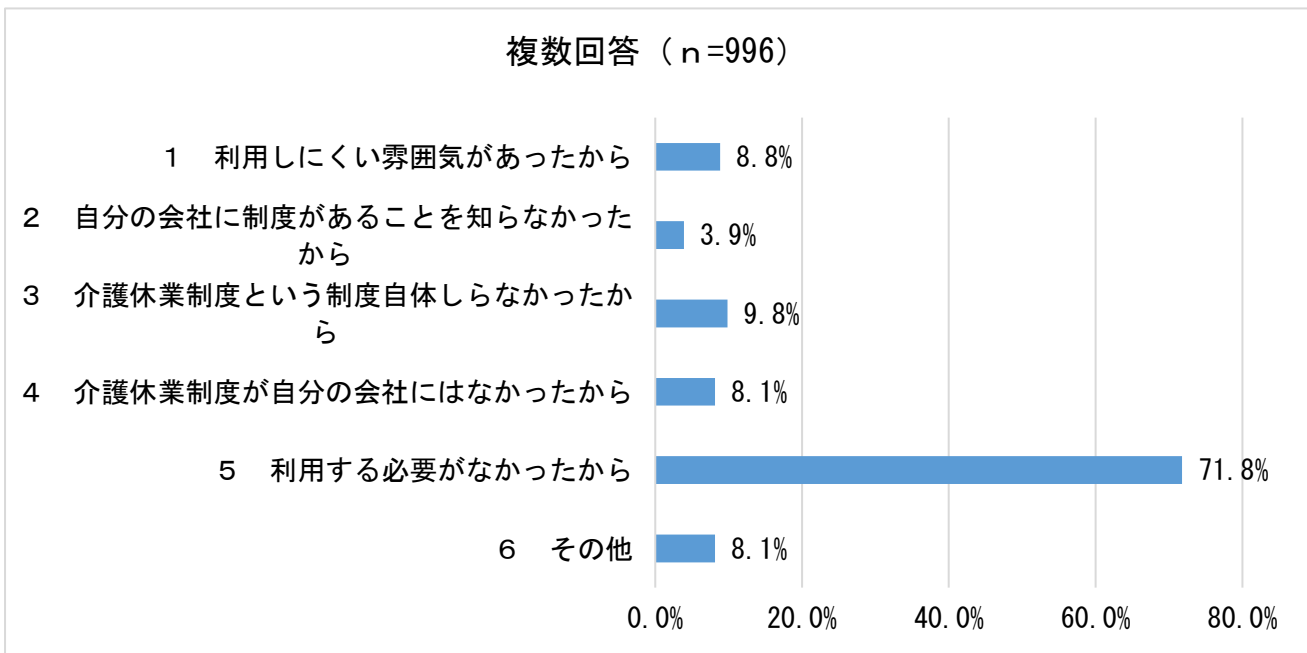
問 20-I 介護休業制度の内容をご存知ですか。(〇は1つまで)



問 20-II 介護休業制度を利用したことがありますか。(〇は1つまで)



問 20-III 問 20-IIで、「2 ない」と回答した方にお伺いします。利用しなかった理由はなんですか。(〇はあてはまるものすべて)

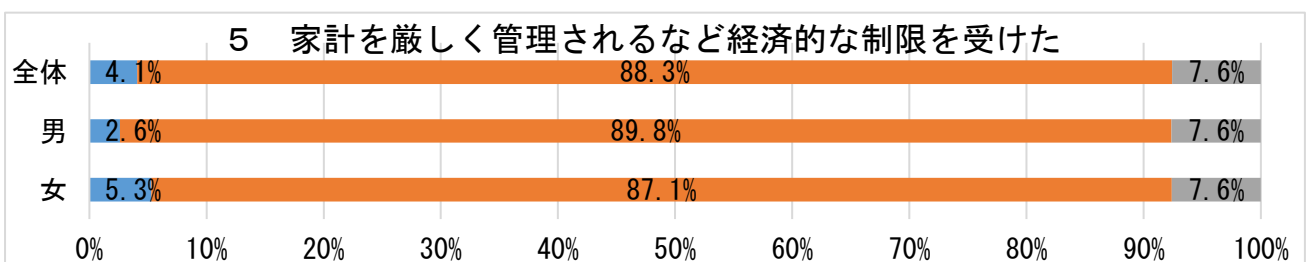
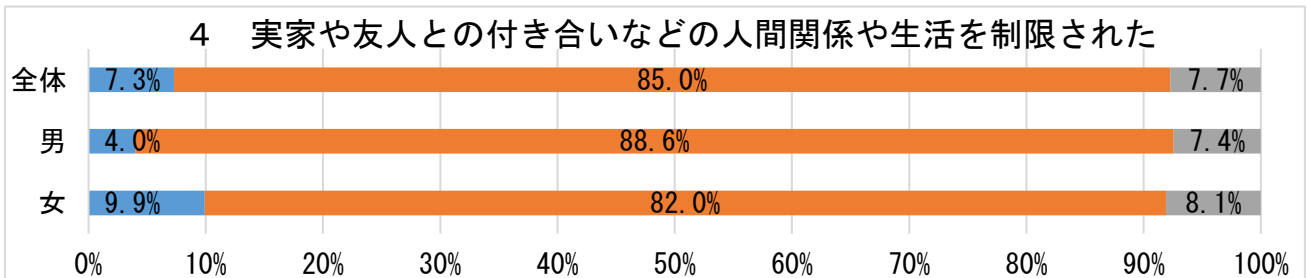
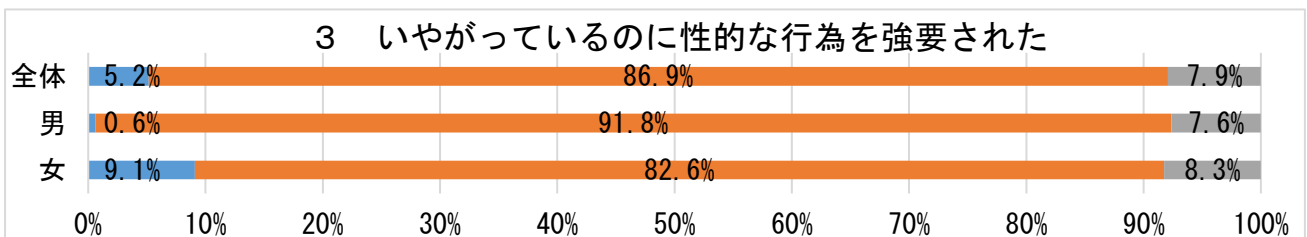
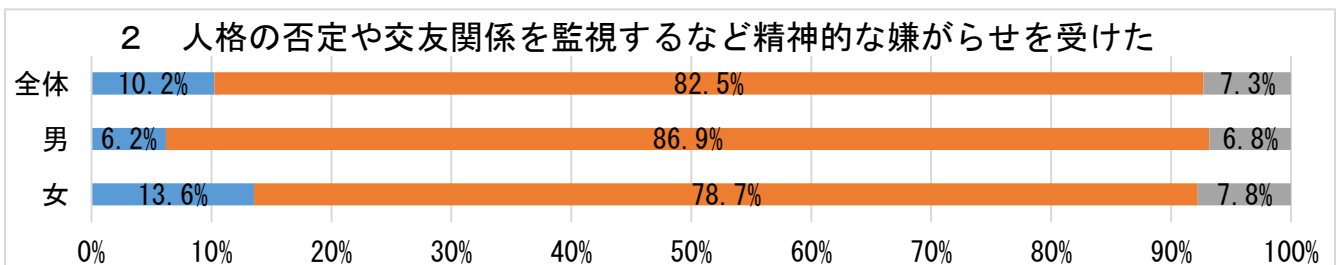
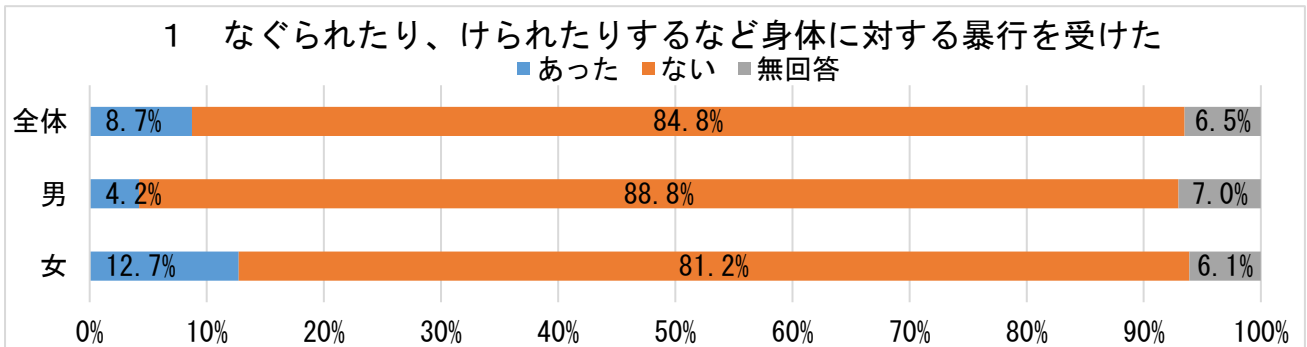


介護休業制度については、育休と比較すると制度自体を知らない人が多かった。また、使用率も非常に低く、その理由としては利用する必要がなかったからという回答が多いが、問7の介護に関する質問においては、今後介護する可能性がある人と回答した人の割合が9割であったことを加味すると、**介護休業制度の普及が必要である。**

●IV 人権について（問21～問22）

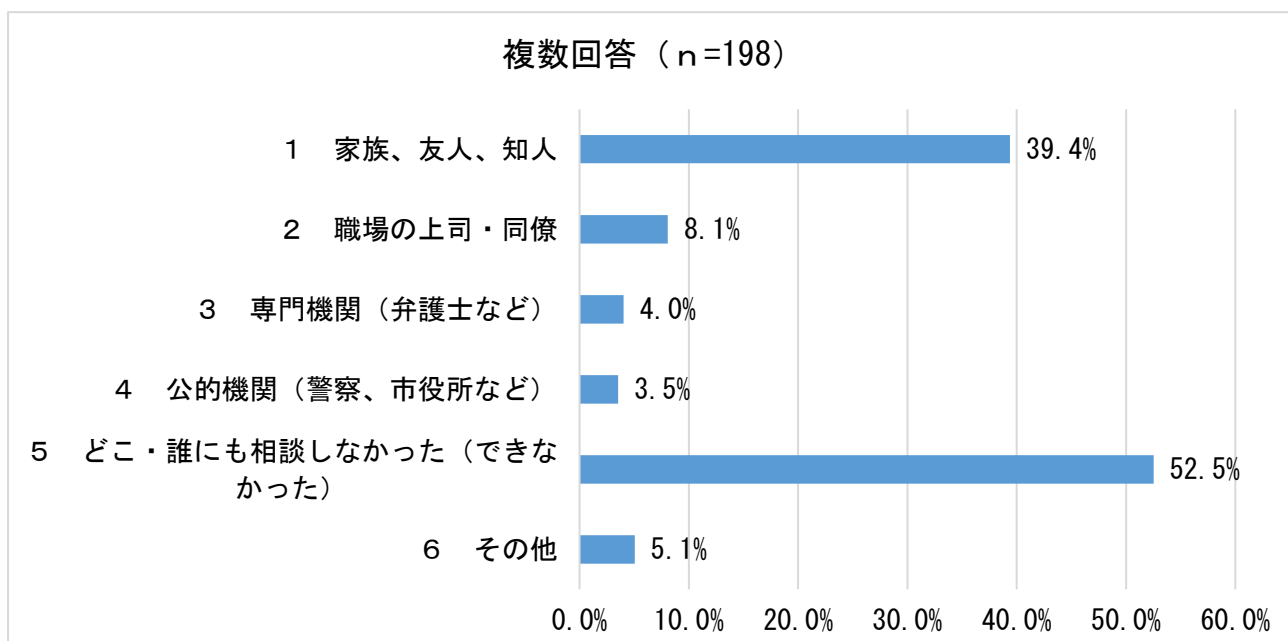
問21 ドメスティックバイオレンス（DV、暴力）に関してお尋ねします。

問 21 - I あなたはこれまでに、あなたの配偶者やパートナー、恋人から次のようなことをされたことがありますか。（○は各1つまで）



各項目共通して「DVを受けたことがない」という回答が多く、また男性よりも女性のほうが被害を受けていることが多い傾向にある。

問 21-Ⅱ 問 21-Ⅰで「あった（ア）」と回答した方におたずねします。そのような行為を受けたことについて、誰かに相談しましたか。（〇はあてはまるものすべて）

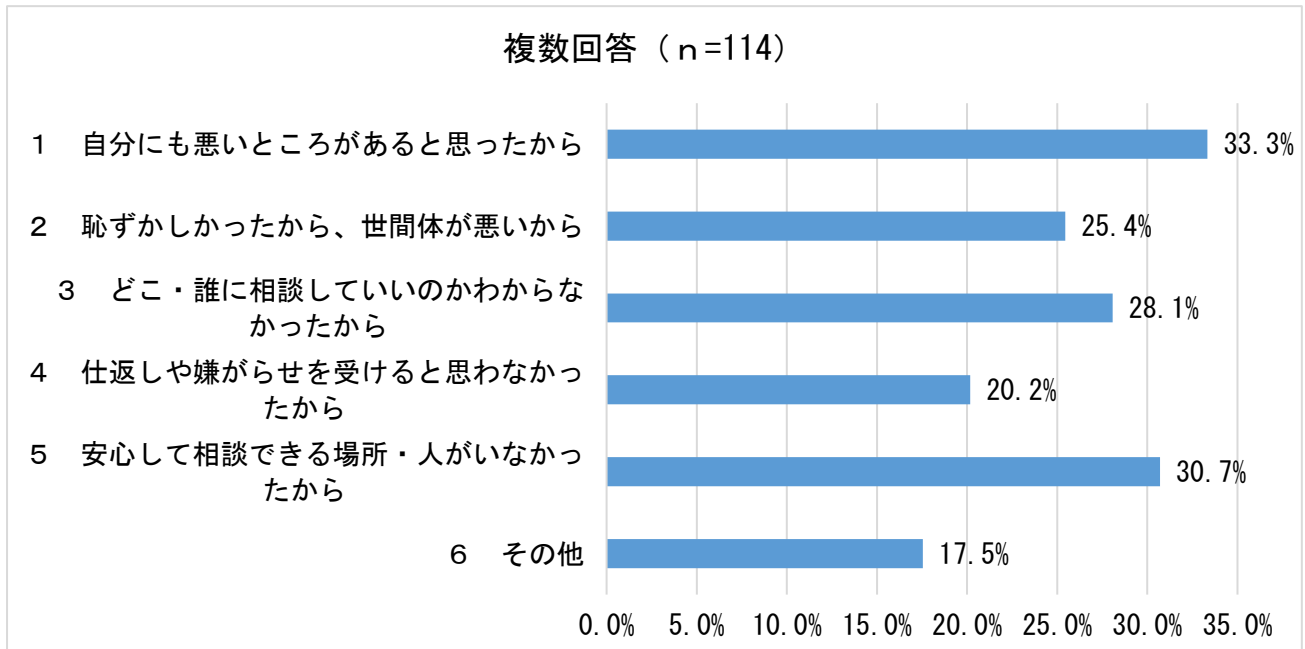


【参考：男女別回答】※回答の多い順に桃・橙・黄色

	全体	男性	女性
1 家族、友人、知人	39.4%	23.2%	45.7%
2 職場の上司・同僚	8.1%	8.9%	7.9%
3 専門機関（弁護士など）	4.0%	1.8%	5.0%
4 公的機関（警察、市役所など）	3.5%	1.8%	4.3%
5 どこ・誰にも相談しなかった（できなかった）	52.5%	69.6%	45.7%
6 その他	5.1%	1.8%	6.4%

誰にも相談できなかったという回答は、女性よりも男性のほうが多く、約7割を占めている。相談先としては、家族、友人等身近な人間に相談している傾向がある。

問21-Ⅲ 問21-Ⅱで「5 どこ・誰にも相談しなかった（できなかった）」と回答した方におたずねします。相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。
（○はあてはまるものすべて）

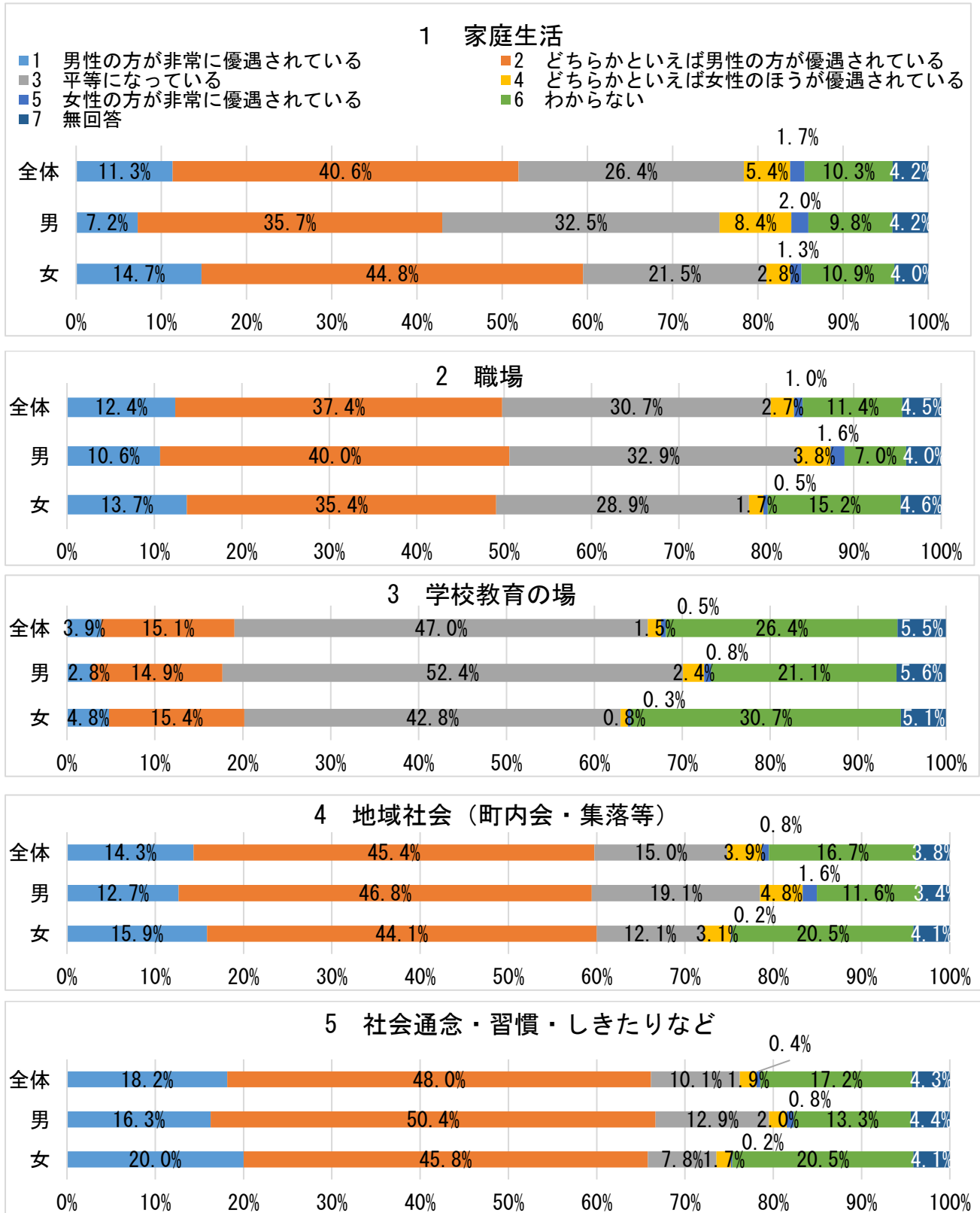


【参考：男女別回答】※回答の多い順に桃・橙・黄色

	全体	男性	女性
1 自分にも悪いところがあったから	33.3%	46.7%	25.0%
2 恥ずかしかったから、世間体が悪いから	25.4%	26.7%	25.0%
3 どこ・誰に相談していいのかわからなかったから	28.1%	33.3%	25.0%
4 仕返しや嫌がらせを受けると思わなかったから	20.2%	17.8%	22.1%
5 安心して相談できる場所・人がいなかったから	30.7%	24.4%	35.3%
6 その他	17.5%	15.6%	17.6%

相談できなかった原因としては、男性は、「自分にも悪いところがあったから」が最も多く、次いで「どこ・誰に相談していいかわからなかったから」であった。一方、女性は、「安心して相談できる場所・人がいなかったから」という回答が最も多く、対象別に適切な相談場所の情報提供をしていく必要がある。

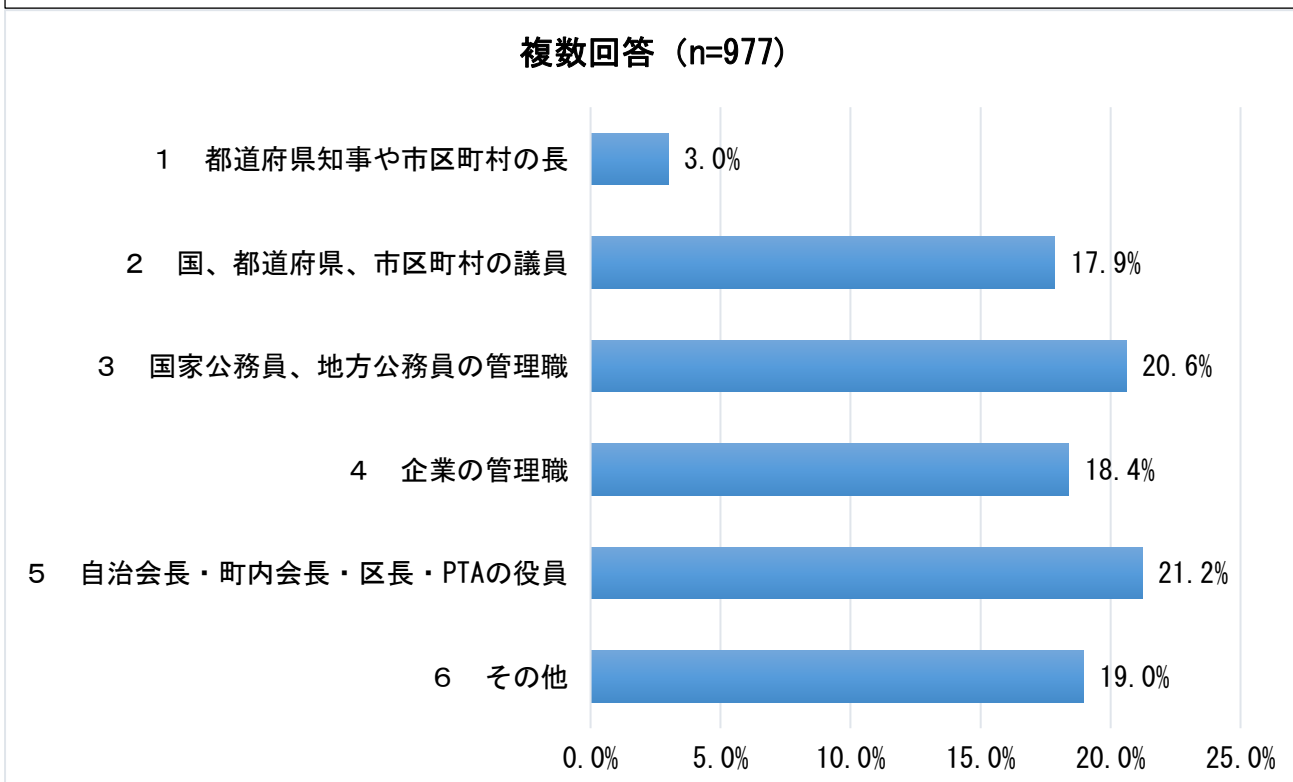
問 22 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。1～5のそれぞれについてア～カのうちから選んでください。(○は各1つまで)



「男性のほうが優遇されている」と感じている人の割合が多かった。「1 家庭生活」では、男性は32.5%の人が「平等になっている」と感じているのに対し、女性は21.5%と11%のひらきがみられた。

V その他について（問23～問28）

問 23 今後女性がもっと増えるほうが良いと思うのはどれですか。
（○はあてはまるものすべて）

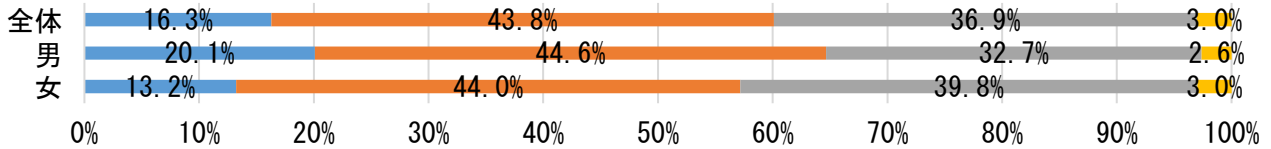


今後、女性がもっと増えるほうが良いと思うものとして、「5 自治会長・町内会長・区長・PTAの役員」が最も多かった。問13において、女性が役員の長でない場合が多い要因として、男性になるのが社会慣習だからという回答が多かったが、社会慣習を変化させるためには、女性側は家事や育児の負担が大きいという回答の傾向があるため、**男性の家事・育児への参画を推進する必要がある。**

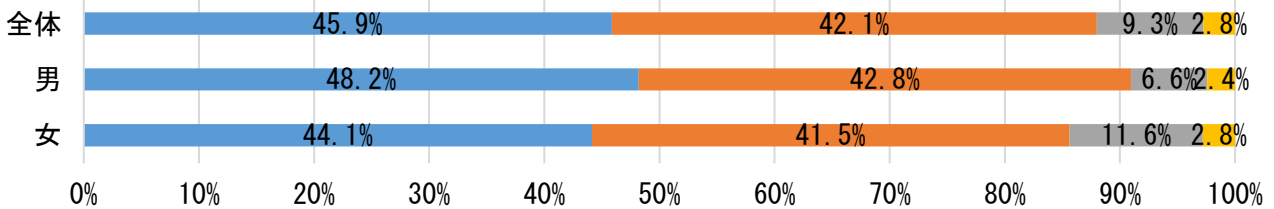
問 24 あなたは、次に掲げるものの名称やことばについてご存じですか。1～9のそれぞれについてア～ウのうちから選んでください。(〇は各1つまで)

1 男女共同参画社会基本法

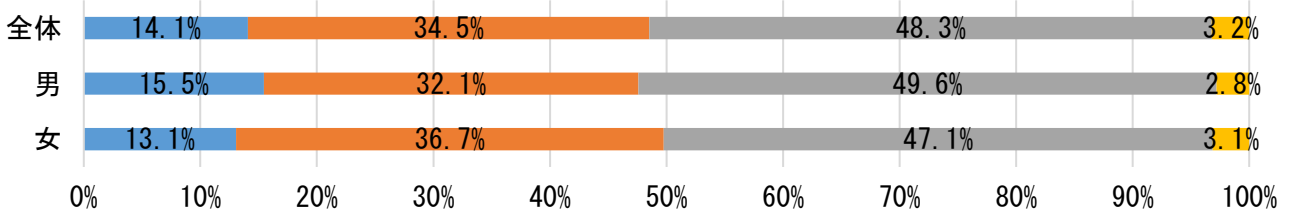
■ 言葉も内容も知っている ■ 言葉は知っている ■ 知らない ■ 無回答



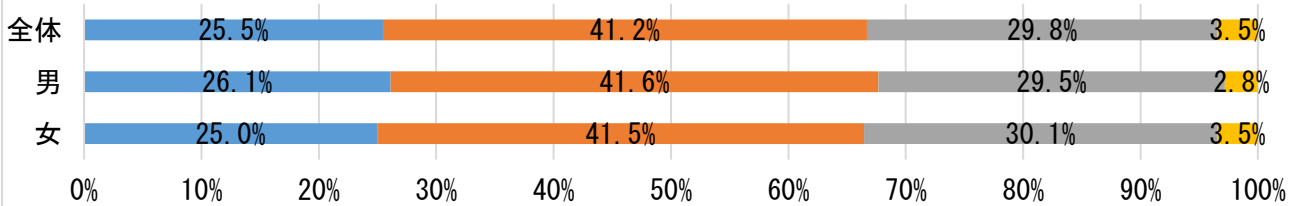
2 男女雇用機会均等法



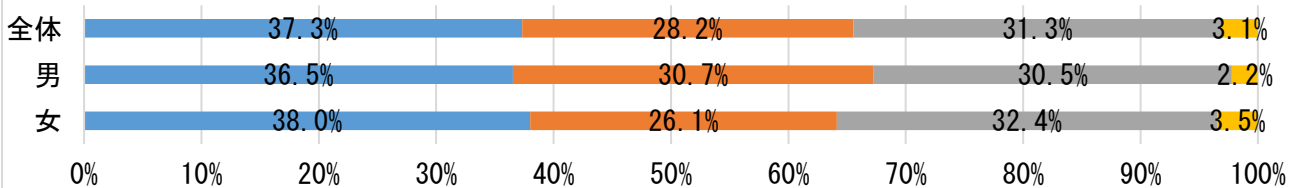
3 女子差別撤廃条約

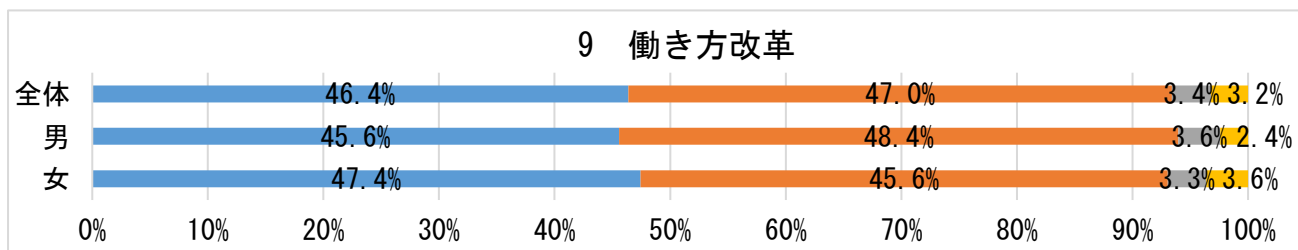
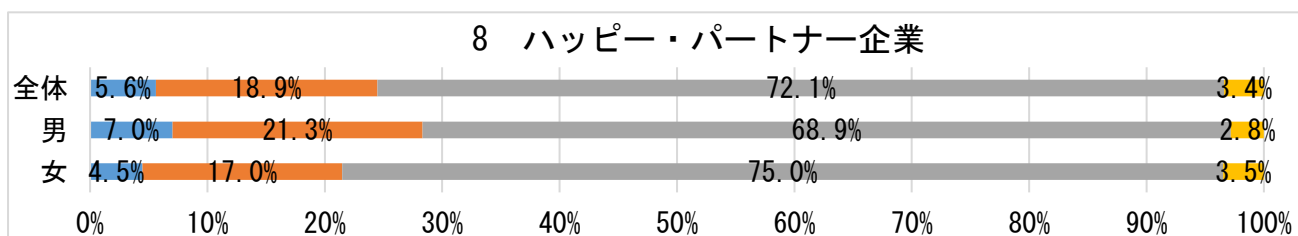
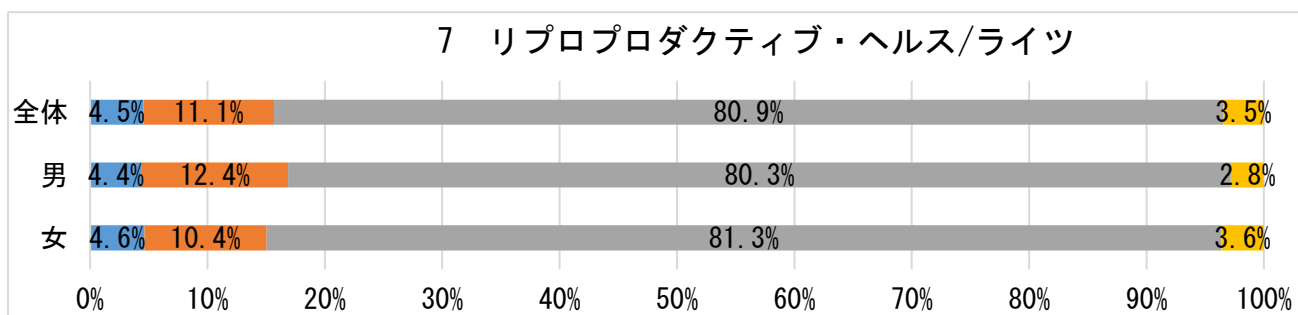
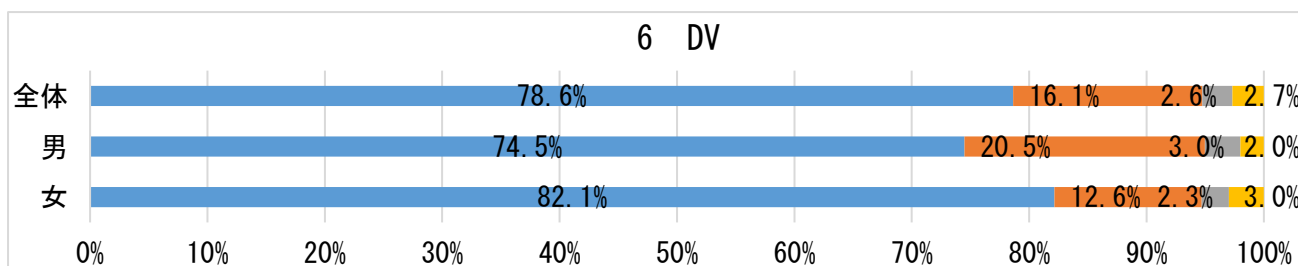


4 ワーク・ライフ・バランス



5 LGBT

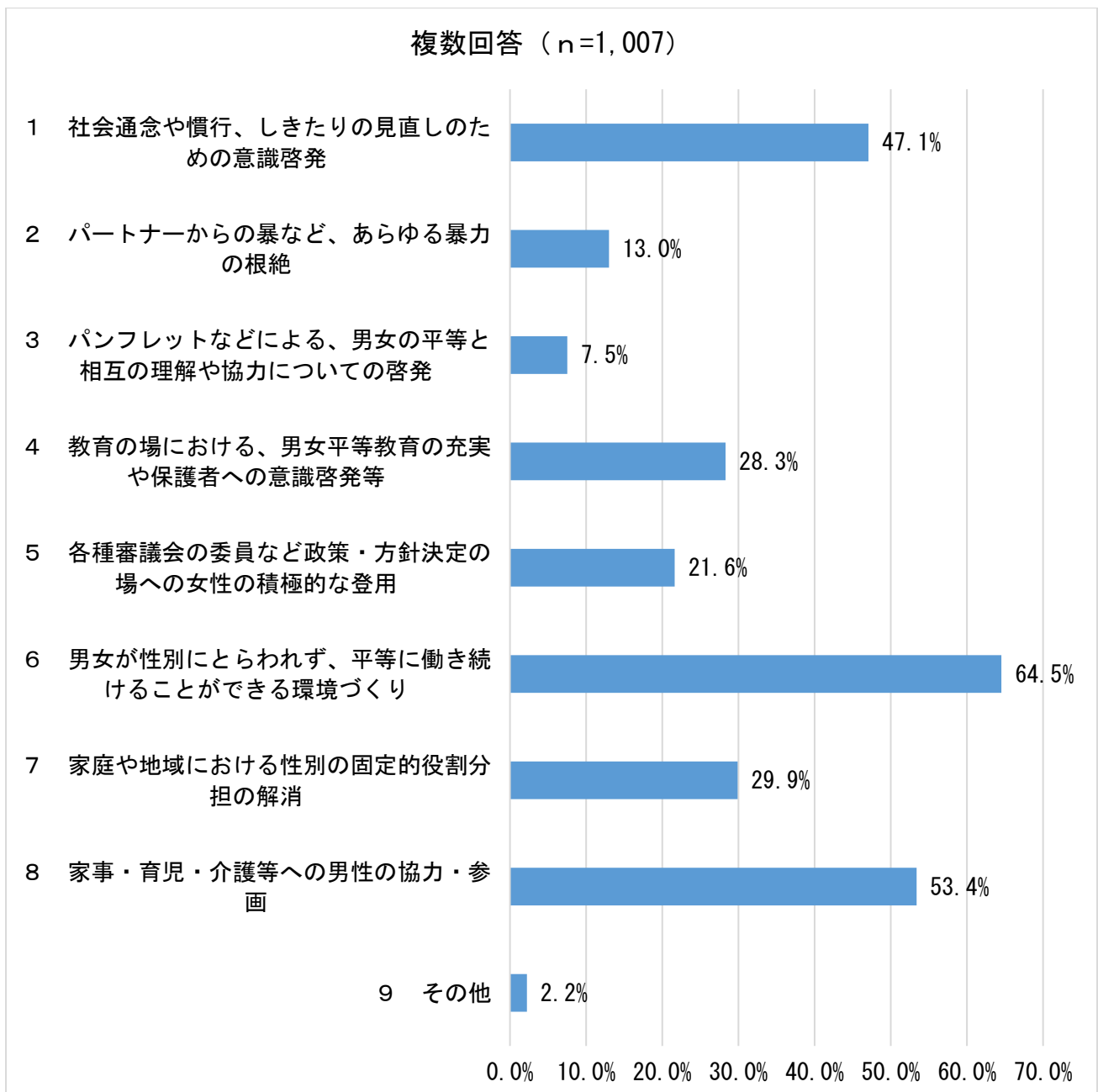




「DV」については、内容まで理解していると回答した人が多く認知度が非常に高い。逆に、認知度が低いものとしては、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」、「ハッピー・パートナー企業」が挙げられる。

また、本調査では新規項目として「LGBT」、「働き方改革」についても調査を行ったが、両項目ともに、単語について認知している人は5割を超えているが、理解度については2、3割程度であり、意識啓発をしながら単語への理解度を高めていく必要がある。

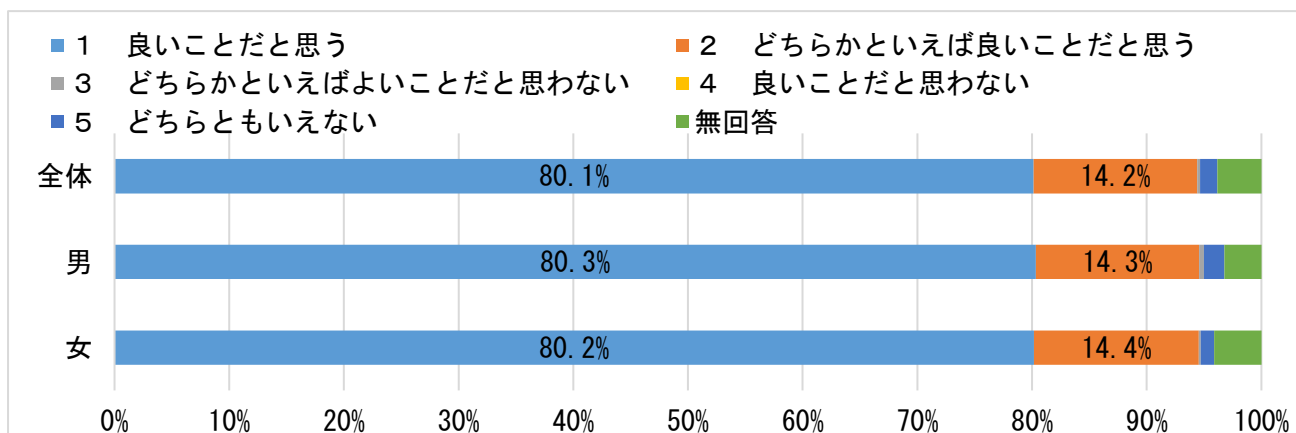
問 25 あなたは、今後、当市が男女共同参画を進めていくためにどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)



今後、男女共同参画を進めていくためにどのようなことに力を入れていくべきかについては、「男女が性別にとらわれず、平等に働き続けることができる環境づくり」、「家事・育児・介護等への男性の協力・参画」がそれぞれ、回答の2割を占めていた。

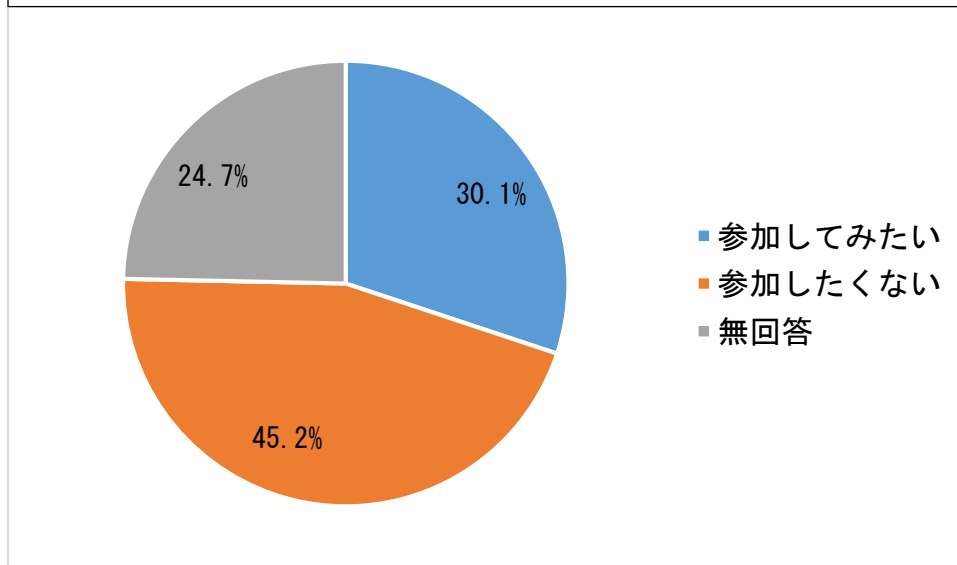
その他の回答としては、「育休を男性も取得しやすいよう推奨する」や、「現代に見合った個々の意識醸成」等が挙げられた。また、パンフレットでは興味がある人しかみないため、ポスター等誰でも目につく媒体による周知という意見があった。

問 26 あなたは、男性も女性も意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会についてどう思いますか。(〇は1つまで)



男女共同参画社会について、内閣府は「男性も女性も意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会」と定義づけている。男女共同参画社会が良いことだと考える人の割合は、8割を超えており、男女共同参画社会の実現に向け政策を行う必要性が高いことが窺える。

問 27 当市では、男女共同参画を進めていくためにセミナーや講演会等を開催していますが、これらの催し物があった際には参加してみたいと思いますか。(〇は1つまで)



参加してみたいと回答した方の興味がある内容としては、「介護に関すること」や「企業の取組について紹介」、「他市町村との現状の比較」等が挙げられていた。

参加したくない人の理由としては、「高齢で移動が厳しいため」や「子育てが忙しいため」のような家庭に関する項目が多く見られた。

問 28 自由記述欄回答（抜粋）

色々な領域でまだまだ「男社会」が根強く残っている所以意識改革が必要だと思う。

女性が仕事を長く続けられる環境を作ることが家庭での育児や家事の良い分担に繋がると思う

「男女共同参画」という文字を見るだけで難しいイメージ。やわらかい表現を前面に出して人を集めた方がいいと思う。

職場の理解が重要だと思う。企業トップの方たちがどの程度男女共同参画について理解しているのか気になる。

男だから〇〇、女だから〇〇という固定観念を取っ払えばうまくいくのでは。

私達 60 歳代は親の世代から家事は女性の仕事として受け継がれているような感じですので、男女共同参画を進めるにあたっては、まず家庭内の平等から改革しなければならないと思います。学校での教育の充実と保護者への意識啓発に力を入れて頂き、まずは家族の意識を変えることからだと思います。

男女ともに育休、介護休暇を取得しやすい労働環境を作りたい

男女の特色は考慮しつつ、意欲があれば分けへだてなく活躍できればと思う。

成人してから「男女共同参画」ではなく、教育、小学校からの教育が重要だと思う。

PTAの役員は女性がとても増えてきているように思う。子育て世代の感覚は男女平等に近いものであるが、集落の役員は断然男性が多く、50代、60代以上はやはり主は男性という感覚の人が多いと思う。子どもの頃からそういうものだと覚えてもらう方がいいと思うので学生への意識啓発を要望する。